

令和 5 年度

ヒューマンケアリングセンター活動報告書



日本赤十字広島看護大学 ヒューマンケアリングセンター

目次

| | |
|-------------------------|----|
| 1. ヒューマンケアリングセンターの活動 | |
| 1) 活動目的 | 2 |
| 2) 活動目標 | 2 |
| 2. 活動実績 | |
| 1) 臨床看護職連携部門 | 2 |
| 2) 地域連携部門 | 2 |
| 3) 学生ボランティア部門 | 2 |
| 4) 学外組織との連携協力による教育研究の推進 | 3 |
| 5) 広報活動 | 3 |
| 3. 全体評価 | |
| 1) 事業 | 3 |
| 2) 次年度への課題 | 4 |
| 4. 各事業の報告 | |
| 1) 臨床看護職連携部門の活動 | |
| 看護職のためのチームづくり研修会 | 5 |
| 中四国地区赤十字関連施設看護継続教育研修会 | 6 |
| 臨床指導者研修会 | 7 |
| 看護師長のためのリフレクション研修 | 8 |
| 2) 地域連携部門の活動 | |
| 認知症サポーター養成講座 | 9 |
| あいプラザまつり | 10 |
| 地域の笑顔とクロスする！元気プロジェクト | 11 |
| 日本赤十字広島看護大学 公開講座 | 12 |
| 阿品台いきいき健康づくり | 13 |
| 3) 学生ボランティア部門の活動 | |
| ボランティア活動の推進 | 14 |
| ボランティア活動の実績 | 14 |
| 4) 学外組織との連携協力による教育研究の推進 | |
| 認知症高齢者支援会議 | 19 |
| 5) 学内教員の活動報告 | |
| 社会活動 | 20 |

1. ヒューマンケアリングセンターの活動

1) 活動目的

本学の教育・研究機能を学外に開き、社会と連携・協働しながら、地域の保健医療福祉に貢献する教育機関として活用できる生涯学習拠点として活動する。

2) 活動目標

- (1) 赤十字施設および実習施設など地域の保健医療施設と連携・協働し、専門職を対象として、ニーズに合った生涯学習の機会を提供する。
- (2) 廿日市市との包括協定を活かして、地域住民を対象として、ニーズに合った生涯学習の機会を提供する。
- (3) 教育ネットワーク中国・社会福祉協議会など外部関係団体との連携を図り、地域住民のニーズにあった生涯学習の機会を提供する。
- (4) 地域支援活動を効果的・効率的に学内外へ広報する。
- (5) 自治体と連携・協働し、地域住民の健康の保持増進に寄与するための健康学習と支援体制を推進する。
- (6) 地域支援活動の成果を評価し、活性化を図る。

2. 活動実績

1) 臨床看護職連携部門

| 開催時期 | 開催内容 | 開催方法 | 参加人数 |
|--------|-----------------------|------|---------|
| 6月～12月 | 臨床指導者研修会 | 対面 | 延 151 人 |
| 11月25日 | 中四国地区赤十字関連施設看護継続教育研修会 | 対面 | 100 人 |
| 1月20日 | 看護職のためのチームづくり研修会 | 対面 | 38 人 |

2) 地域連携部門

| 開催時期 | 開催内容 | 開催場所 | 参加人数 |
|----------------|----------------------|---------------|--------------|
| 11月5日 | あいプラザまつり | 山崎本社みんなのあいプラザ | 48 人 |
| 1月25日 3月26日 | 地域の笑顔とクロスする！元気プロジェクト | 日本赤十字広島看護大学 | 15 人 30 人 |
| 1月27日 | 日本赤十字広島看護大学 公開講座 | 山崎本社みんなのあいプラザ | 65 人 |
| 2月20日 | 阿品台いきいき健康づくり | 阿品台市民センター | 43 人 |

3) 学生ボランティア部門

学生ボランティア等参加募集及び活動実績

| 参加募集 | | 活動実績 |
|--------------------------|------|---------|
| ボランティア | 65 件 | 約 200 人 |
| 文化情報、保健・福祉・医療介護に関連するイベント | 17 件 | |

学生のボランティア意識向上や地域活動推進のための講座

| 開催時期 | 開催内容 | 開催場所 | 参加人数 |
|-------|--------------|-------------|------|
| 4月7日 | ボランティア講習会 | 日本赤十字広島看護大学 | 130人 |
| 9月27日 | 認知症サポーター養成講座 | 日本赤十字広島看護大学 | 191人 |

4) 学外組織との連携協力による教育研究の推進

教育ネットワーク中国のシステムを活用し、看護系大学として他大学にないテーマの提供と教育研究成果の還元ができるよう調整した。

第2回広島県大学生地域連携活動発表会に学生と教員が参加し、学生は地域連携の実践活動について発表し、他大学との意見交換や交流を図ることができた。

廿日市市社会福祉協議会主催の認知症高齢者支援会議へ出席し、さらに学生を対象とした認知症サポーター養成講座を実施することで、認知症に関する学習機会を設けた。

また、科研による早稲田大学との共同研究に取り組み、令和5(2023)年度は、広島県及び廿日市市における防災教育・教材に関する情報収集を行った。今後は、防災教育に関するプラットフォームを開発し、学生も参加した地域における防災教育の支援体制を整備する予定である。

5) 広報活動

本学ホームページに各事業の募集記事を掲載した。

臨床看護職連携部門では、赤十字関連施設、実習関連施設、近隣の医療施設を中心にチラシを配布し、地域連携部門では、主に廿日市市、広島県教育委員会、教育ネットワーク中国を通して募集を募った。

また、中国新聞や中国新聞デジタルへ掲載の依頼をしたことで、近隣住民より多くの応募があった。さらに、ヒューマンケアリングセンターの新事業で立ち上げた「地域の笑顔とクロスする！元気プロジェクト」については、学生が地域住民と触れ合う光景が中国新聞に掲載された。

学生ボランティア部門では、本学のサイトより学生ボランティアの応募を募った。

3. 全体評価

1) 事業

新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症に移行したことに伴い、すべての研修会事業を対面に変更した。

令和 5 (2023) 年度はヒューマンケアリングセンターのリニューアルキックオフとして、地域住民の健康増進に寄与するための拠点として「地域の笑顔とクロスする!元気プロジェクト」を開催することができた、また、このプロジェクトを継続するための計画立案、体制についても整えることができた。さらに、地域自治体等からの健康に関する講義依頼も増加傾向にあるため、各教員が地域貢献できる内容についてのアンケート調査を実施し、情報を取りまとめる仕組みづくりも開始した。地域に開かれた知の拠点として活動を強化する基盤を概ね整えることができた。

臨床看護職連携部門では、リカレント教育として位置付けられた臨床指導者研修会は、参加者が多く、昨年に続けて、全課程修了者には、「修了証書」を発行することができた。その他の研修会運営が、当該年度に企画運営をしていたため、今年度より前年度に企画、講師交渉をするように変更した。また、開催要領も整えた。

学生ボランティア部門は、学生間でボランティア登録システムが定着し、ボランティア参加者が増加している。学生からも情報を得やすいという評価を受けている。

2) 次年度への課題

ヒューマンケアリングセンターのリニューアルとして、3 部門の事業が円滑に進められるようにシステムとして整えることができた。今後は、毎年、個別事業の評価だけでなく、運営体制の評価も実施することが課題である。また、研修会参加者が増加している臨床指導者研修会は、委員会メンバー誰もが、「指導のリフレクション」や「学びの共有」のファシリテーターとして活動できるように教員を育成することが課題である。

また、学生ボランティアの参加が固定化する傾向があるため、ボランティアきっかけ講座や認知症サポーター養成講座などを通して、さらになる学生のボランティア意識向上に努めていく必要がある。

4. 各事業の報告

1) 臨床看護職連携部門の活動

看護職のためのチームづくり研修会

<事業評価>

カンファレンスに役立つコミュニケーションスキル～分かち合い、学び合うためのファシリテーションスキル～をテーマに 3 時間半の研修会を開催した。参加者は 38 名（申込 40 名）でワークやカンファレンスのデモンストレーション等を通してファシリテーションスキルを体験的に学び、カンファレンスで実践に移せるスキルを習得することができていた。研修後のアンケートは、回収率が 67.5%であった。アンケートでは、「即実践できる内容だった」「カンファレンスへの苦手意識が変わった」など、肯定的な意見のみで満足との回答は 92%でやや満足の 8%を入れると 100%であった。研修会運営に対する意見としては、「次回も楽しみ」「2 日間でも参加したい」「研修時間を長くしても良い」などの意見があった。また、「いろいろな参加者と意見交換できて楽しかった」という意見もあり、仲間づくりの場にもなっていたようである。



<今後の課題>

今年度は、新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症に移行したことから、対面での研修会とした。対面に変更した初回でもあり、参加費を 1000 円とした。次年度以降は、参加費を規定通りに戻すこととする。また、日程調整に時間を要し、助成金申請に間に合わなかったため、次年度以降は、日程調整を早めに行い、助成金申請が間に合うよう計画していく必要がある。

準備について、準備物品が多く、備品の確認・調整や不足物の購入が必要となった。次年度も同じ講師での研修を計画しており準備に関しても計画的に進めていく。

アンケート結果から、研修は高評価であり、「2 日間でも参加したい」との意見もあることや、ニーズも高いことから次年度も同じ講師で、時間を 1 日として計画していく予定である。

中四国地区赤十字関連施設看護継続教育研修会

<事業評価>

令和 5（2023）年度は、新人への対応方法・指導方法のヒントを得ることを目的に、「“ちょっと手がかかる”新人ナースを育てるプリセプターへの支援」というテーマで研修会を開催した。研修では、発達障害やパーソナリティ障害について、脳の構造・機能との関連も示しながら、対応の仕方やその対応が有効な背景、プリセプターを支援するための管理者の在り方などの講義なされた。

100名の参加があり、アンケートは57名の回答が得られた。研修会の満足度は、満足・やや満足を合わせると81%であり、「学習者の特性を発達障害と人格障害と脳機能から理解できた」「手がかかる看護師への対応のヒントになった」など、新人が抱える課題の理由・原因の根拠を知り客観的に捉えたり、対策を考える機会となっていたことから、研修の目的はおおむね達成できたと考える。一方、アンケートでやや不満としたものも5%あり、「チラシのタイトルと内容に乖離があった」「プリセプター支援について、もっと具体的に学びたい」「講師との意見交換やグループワークがあった方が良い」「時間が短い」という意見もあった。研修後の質問の時間を設けたものの、時間をかけて相談・質問される参加者もあり、すべて参加者の質問に答えていただくには至らず、具体的な対策を知りたいと望まれている方には消化できない部分もあったと考える。研修会で、個別の質問に答えることには限界もあるため、あらかじめ臨床での課題などの情報収集をしておき、まとめて講師への回答を依頼するなどの工夫をしていきたい。

なお、開催方法は対面のみとした。100名の参加であったが、受付方法の工夫により、混雑することなく滞りなく行えた。



<今後の課題>

募集定員数80名に対してそれを上回る申し込みがあり、結果的に100名の参加となった。早くから多くの申し込みがあったことから、現場にとって関心が高いテーマであることや、アンケートの結果から、より具体的な対策を知りたいと求めていることがうかがえた。対面による研修も可能な状況となったため、開催方法の多様化や研修時間の延長などの工夫をしていく。

臨床指導者研修会-共に創るポストコロナ時代の看護実習教育

<事業評価>

本学は、保健師教育課程、助産師教育課程の実習を含め約 50 施設に実習の協力をいただいている。令和 4（2022）年度から「臨床看護職連携部門」の運営として位置付け、臨床指導者の指導力向上や新人教育の質向上に寄与することを目的に実施している。

令和 5（2023）年度は、本学での対面研修を基本としたこともあり、グループワーク等活発なディスカッションも可能となった。臨床指導者としての役割がある人だけでなく、新人教育や後輩育成に携わる人などが参加していた。第 1 回 35 名、第 2 回 38 名、第 4 回 39 名、第 5 回 39 名、延べ 151 名が受講、32 名が全課程を修了し修了証書を授与した。

受講終了時のアンケートでは、本研修会全課程について、80%が満足、20%がやや満足との回答であり、「教育の概念から指導方法、対象者の特性や発達の特徴など指導に必要なことについて学ぶことができた」、「リフレクションや倫理などグループワークを通して具体的に理解することができ、臨床指導に活かせる内容だと思った」など概ね満足の評価であった。

| 6/7 改訂版 | | 令和5年度 臨床指導者研修会 プログラム | | |
|---------|---------------|-------------------------------------|---|-------------------------------|
| | 日程 | 時間 | 内容 | 講師 |
| 第1回 | 令和5年6月16日（木） | 9:00~10:30 | 開講式/オリエンテーション 絵本で学ぶヒューマンケアリング | HCC運営委員会 矢野博史 |
| | | 10:40~12:10 | 教育原理-教育という自明性の再検討 | 矢野博史 |
| | | 13:30~14:10 | リフレクションの概念 | 村田由希 |
| 第2回 | 令和5年7月27日（木） | 9:00~10:30 | 教育方法-教授学習の基礎理論- | 矢野博史 |
| | | 10:40~12:10 | 社会の変化に対応する高等教育としての看護 基礎教育と看護学実習 | 村田由希 |
| | | 13:00~14:30 | 対人関係論 | 戸村謙子 |
| 第3回 | 令和5年8月~9月 | 14:40~14:10 | 実習指導の実際 実習指導計画立案 | 村田由希 |
| | | 自己学習 | 自己学習 | |
| | | 施設における臨床指導者実習 学習ポートフォリオの作成（コネル式） | 自己学習 | |
| 第4回 | 令和5年11月9日（木） | 9:00~12:00 | 実習指導のリフレクション | 村田由希 |
| | | 13:00~14:30 | 看護理論 看護の概念、看護の知と実習指導 | 山村美枝 |
| | | 14:40~14:10 | 看護倫理 実習指導における倫理的課題 | 川西美佐 |
| 第5回 | 令和5年12月14日（木） | 9:00~12:00 | 発達障害及びその特性を持つ学生の理解と実習指導 | 広島県発達障害者 支援センター 長 大森雅和氏 |
| | | 13:00~14:30 | 教育心理-看護学生及び学習者の心理- | 丸山聖子 |
| | | 14:40~14:10 | 実習指導からの学びの共有 ディスカッション 課題と今後のChallenge 修了式/修了証書授与 | 村田由希 |



<今後の課題>

本研修会におけるリフレクションのグループワークでは、ファシリテーターが必要であるので、今年度は担当委員が複数名参加した。次年度の引き続き、ファシリテーターとしてのスキル向上に努めるとともに、担当できる委員を増員できるよう計画する。

看護師長のためのリフレクション研修会

<事業評価>

今年度から新規に開始した自主企画研修会である。この研修の目的は、看護師長がリフレクションスキルを習得することである。同じ施設の師長3名を一組として、5組計15名を対象に6月～9月まで毎月2コマ研修会を開催した。スタッフのリフレクションを支援するためには、まず、看護師長がリフレクションの実践者であり、スタッフのファシリテーターとなるスキルを身に付けておくことが重要であるという発想から、本研修会を開講した。回を重ねるごとに、師長一人ひとりのリフレクションが深まっていくことを感じる事ができた。5回終了後のアンケート結果も概ね満足度の高い研修であることが分かった。参加者からは、「活用できるようにこれからも学習したり、自分のものになるくらい繰り返しリフレクションをしていきたい」、「中間面接でスタッフへの関わりをリフレクティブにできるよう意識してみたい」などの肯定的な意見もいただいた。本研修会は、今後も毎年継続して実施する予定である。

日本赤十字広島看護大学 ヒューマンケアリングセンター 自主企画

看護師長のための リフレクション研修会



2023年度6月から全課程5回のリフレクション研修を開催します。
スタッフのリフレクションを支援するためには、まず、師長がリフレクションの実践者であり、スタッフのファシリテーターとなるスキルを身に付けておくことが重要です。体験しながらリフレクションを学びましょう。

場所: 日本赤十字広島看護大学 301 講義室
講師: 学長/教授 田村由美
ファシリテーター 副学長/教授 村田由香

日時
2023年度
1回目 6月17日(土) 13:00-16:10
2回目 7月22日(土) 13:00-16:10
3回目 8月19日(土) 13:00-16:10
4回目 9月2日(土) 13:00-16:10
5回目 9月30日(土) 13:00-16:10

対象者 医療施設に勤務している看護師長 1施設につき3名または6名(3名16の所員をします)までとし、全日程出席される方を対象とします。
リフレクションの知識をしますので、研修はすべて対面で行います。

受講料 一人1回4000円 全課程20,000円
入金方法は裏面をご参照ください。

申し込み 2023年6月7日(水)
締め切り 定員になり次第締め切ります。



<今後の課題>

次年度は、広報を4月初旬に行い、毎月1回実施する。また1施設から4名として計20名を募集して開催する計画である。

2) 地域連携部門の活動

認知症サポーター養成講座

<事業評価>

認知症サポーターは、認知症に対する正しい知識と理解を持ち、地域で認知症の人やその家族に対してできる範囲で手助けし、認知症高齢者等にやさしい地域づくりに貢献するために、養成されている。本学学生に対し、看護職として地域で生活する認知症の人とその家族への支援方法について理解を深めることができることに加えて、認知症の人やその家族を支援する地域住民の一員として、活動できることを期待し、廿日市市社会福祉協議会との共催のもと、1、2年生を対象に開催した。講師として廿日市市キャラバン・メイトのメンバーを講師に迎え、①認知症の原因疾患別の症状、特徴を理解する ②認知症の原因疾患別の行動・心理症状の特徴 ③認知症の人の「内的世界」を理解する事例演習 ④DVD鑑賞を通して学んだ。参加者は、学生190名、地域住民1名の合計191名であった。参加した学生の講義の満足度は、大変よかった、よかったが98.8%、認知症サポーターの役割と何をすればよいかの理解度：よくわかった、わかったが96.4%を占めていた。認知症のある方に対して、受講前は、何もわからない、周囲が大変で迷惑をかける、関わり方がわからないというイメージがあったが、受講後は、認知症の方も不安や苦痛を持っており、一人の人間として捉え、理解し寄り添うことが大切であることを理解していた。また、認知症サポーターとして、認知症のある方と積極的に接し、見守りやサポートを行っていききたいという意見が多かった。参加者全員に対し、認知症サポーターの印である、「認知症サポーターカード」を交付された。講座への参加によって、認知症への理解を深め、実際の地域での支援へと繋げてほしいという目的は達成されたといえる。



<今後の課題>

本講座は一般向けのわかりやすい内容であり、1、2年生にとって、認知症の方への偏見の払拭や接し方の理解につながっていたといえる。今後は、1年生を対象に、同様の時期に開催をする。また、地域住民の受講ができるように、広報し参加者を募る。

あいプラザまつり

<事業評価>

あいプラザまつりにて「今日からできる健康づくり」として、「フレイルのチェック」、「フレイル予防体操」、「健康づくりグループの活動紹介」を行った。参加者の反応としては、フレイルに関心が高くほとんどの方が一緒に体操を経験されるなど好評で、健康づくりに関心をもつ機会となっていた。本学の学生ボランティアも多数参加し、来場者と交流を深めることができた。参加者は、延べ 48 人名で、高齢者が多かった。

<今後の課題>

参加された高齢者の中には、独居の方も多く、フレイル予防の社会参加地域のサロンの情報を紹介できれば良かった。

運営に関して、断続的に来場があったため、スタッフやボランティアの休憩時間を確保できなかったが、適宜、水分摂取等の休憩を確保すればよかった。また、内容が複数であるのに対し会場が狭く、体操の際の荷物の置き場所やスペース確保など随時調整することが必要となった。

来場者に親子連れも多かったため、幅広い年齢層をターゲットに企画を検討する。赤十字、看護大学の特徴をアピール

する。赤十字救急法の日常生活における事故防止や止血の仕方、包帯の使い方、骨折など

の場合の固定、搬送、災害時の心得などの周知、体験なども検討材料とする。

“フレイル”の先送りで健康いきいき生活

これからは病気だけでなく、心身の加齢変化への注意が重要です。特に気をつけたいのが、“フレイル”！！

フレイルってなに？！

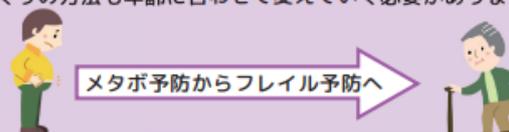
からだやこころの機能の低下によって、要介護に陥る危険性が高まっている状態



「健康」な期間を延ばす＝フレイルを先送り(予防)する
健康寿命の延伸につながる

高齢期からの健康管理

歳を重ねると、心身にさまざまな変化が起こるため、健康づくりの方法も年齢に合わせて変えていく必要があります。



| | 50歳～64歳 | 65歳～74歳 | 75歳～ |
|----|--------------------------------------|-----------------------|------|
| 目標 | 生活習慣病の予防 | 老化予防=心身機能の維持 | |
| 対象 | メタボリックシンドローム (肥満・高血圧・糖尿病・脂質異常の集積) | フレイル(虚弱) | |
| 栄養 | 摂り過ぎに注意、 野菜はしっかり | 不足に注意、 肉・魚・卵はしっかり | |
| 運動 | エネルギーを消費 (有酸素運動) | 筋力、足腰をしっかり維持 (筋トレ) | |
| 社会 | 働き過ぎやストレスの解消 | 積極的な社会参加 | |

「3つの柱」でフレイル予防

フレイル予防には、運動：習慣づけて体力を保つこと、栄養：いろいろな物をよく噛んで食べて栄養素をしっかりとること、社会参加：家にこもらず外に出ることの3つが重要です。



▶ 3つの柱の詳細は裏面にて

出典：東京都健康長寿医療センター研究所

地域の笑顔とクロスする！元気プロジェクト

<事業評価>

令和5（2023）年度より始まった本事業は、年間4回を計画しており、第一回はキックオフとして「隠れ脱水のキケン アロマで癒されよう！」を1月25日に開催した。前半は「隠れ脱水の危険」について、なぜ脱水になるのかという根拠を踏まえて日常生活での留意点についてわかりやすく説明した。後半は、本学アロママッサージ部の学生によるハンドマッサージの実施やボランティア学生の協力での体組成や握力、血圧、ドライスキンの測定を行った。

地域住民15名の参加があり、そのうち14名のアンケートの回答が得られた。満足度は、満足8名、やや満足4名で86%が満足との結果であった。講義の感想では「正しい水分の摂り方がわかってよかった」「生活に取り入れたい」などがあった。また、アロママッサージ部の学生によるハンドマッサージは、参加者全員が希望され、学生と楽しそうに話しながらリラックスしてハンドマッサージを受けておられた。アンケートでも、「満足」「よかった」などの意見があり、「また開催してほしい」と言って帰られる方もいた。

初回の参加者は事前申し込み不要としていたが、概ね想定していた通りの参加人数であった。学生（ボランティア・アロマ部）の活躍もあり、参加者の反応もよく、地域のニーズに答えられている手ごたえはあった。また、会場のヒューマンケアリングセンターは、玄関からも近く、参加者に入ってもらいやすい位置にある。しかし、入室の人数は15～30名が限界であり、今回も後半の活動に入るとやや手狭な印象となった。



<今後の課題>

プロジェクトの内容によって事前申し込み必須とする、会場を検討するなどの運営の工夫が必要である。

なお、今回は、「元気プロジェクト事業」の初回であり、3月末には第2回のウォーキング講座を計画している。まずは1年間プロジェクトを運営し、地域の方と交流をしながら生涯学習拠点となるよう確立していく。

日本赤十字広島看護大学公開講座

<事業評価>

「いざという時のため、日頃から災害に備えることができる」ことを目的に講演を行った。廿日市市ならびに廿日市市教育委員会と共催しての開催であったが、2024年1月1日に能登半島地震が発生したこともあり、参加者は65名であった。

講座終了後のアンケート回収率は93.8%で、30歳代1名、40歳代7名、50歳代9名、60歳代15名、70歳代16名、80歳代以上11名の参加があった。講座では、災害発生時にまずは難を避けるために「逃げること」、逃げた後にどのように行動するべきか食事・排泄・睡眠に焦点を絞り、具体的な方法を交えながらの説明であった。その結果、参加者からは「具体的な説明が分かりやすかった」、「日頃から備える必要性がよく分かった」という声が聞かれた。大規模災害の発生直後であったため、災害に対する関心度が高く、ニーズに合ったテーマであり目標は達成できた。



令和5年度
日本赤十字広島看護大学 公開講座

どうする 災害

～いざという時のため、日頃から災害に備えることができる～

日 時：令和6年1月27日（土）
10時30分～11時30分（開場10時）

場 所：山崎本社みんなのあいプラザ3階 講座室
（廿日市市新宮一丁目13-1）

対 象：どなたでも（参加費無料）

講 師：高田 洋介（日本赤十字広島看護大学 災害看護学 講師）

申 込：二次元コードもしくはメール
メールの場合は、次の内容を入力してお送りください。
件名：公開講座
本文：①氏名、②年齢、③住所(市・町まで)、④電話番号
宛先：human@jrchen.ac.jp



主催：日本赤十字広島看護大学ヒューマンケアリングセンター
共催：廿日市市・廿日市市教育委員会
【お問い合わせ】日本赤十字広島看護大学 ヒューマンケアリングセンター
☎ 0829-20-2806 ☺ human@jrchen.ac.jp



<今後の課題>

廿日市市の広報誌のみでなく、中国新聞に開催案内を出したことによる効果は大きかった。しかし、広報誌や新聞の購読者は、比較的高い年齢層であることもあり、参加者の多くは60歳以上であった。よって、公開講座の開催を若い世代にどのように発信していくか、また若い世代の防災意識をどのように高めていくか課題が残った。

阿品台いきいきプロジェクト後継事業

<事業評価>

阿品台市民センターと共催し、本学の教員が健康づくりに関連した講座を開催した。テーマは「元気づくりはこちよい眠りから」とし、高齢者の睡眠の特徴を知り、高齢者に起こりやすい睡眠障害の原因について学び、こちよい眠りができる方法を習得する内容とした。アンケートから、自分の生活を見直すことができた、寝酒について見直したい、無理に寝ようとしなくてよい、自分にあった体内時計で動くことの大切さがわかったなどの感想が聞かれた。さらに、昼間に活動することが重要であるため、地域のサロンなどを活用する意義を参加者と確認できた。感染対策にも考慮し、間隔をあけて座り、43名の参加があった。学生のボランティアが2名参加し、血圧測定をすることで参加者と交流を図ることができた。

令和3（2021）年度の参加者に対して研修テーマを募集した中から、希望の多かったテーマから順番に実施している。阿品台市民センターの協力により、市民センターだよりで広報し、市民センターへチラシと申込書を設置し、電話申込み受付も可能とするなどの対応により、周知が図られた。

いいき健康づくり講座

参加費 無料
(先着30名様)

～元気づくりは
こちよい眠りから～

- ・不眠が続いてしんどい方
- ・ストレスがたまって眠れない方
- ・元気で暮らしたいと思われる方

ストレスを発散して、
こちよい眠りの
コツをつかみましょう！

日程 → 2024年2月20日（火）

時間 → 13時30分～15時

場所 → 阿品台市民センター大研修室

講師 → 水馬 朋子（日本赤十字広島看護大学）

申し込み方法:別紙申込用紙にお名前、住所、電話番号を
ご記入の上、市民センターへお申込みください。

お問い合わせ 日本赤十字広島看護大学 TEL 0829-20-2806
阿品台市民センター TEL 0829-39-4338

主催:日本赤十字広島看護大学 共催:阿品台市民センター



<今後の課題>

今後も、地域住民のニーズに応じたテーマを取り入れながら、阿品台市民センターと協働して地域住民の健康の保持増進に係る事業を継続する。

3) 学生ボランティア部門の活動

学生へのボランティア活動の推進

令和 4 (2022) 年度から、学生ボランティアやイベントの参加募集の総合窓口として学外のニーズと学生のマッチングを組織的に行うことを目的に活動を開始し、今年度は、ほぼ軌道にのった。

方法としては、ヒューマンケアリングセンターが主に廿日市市や、市内の団体と連携し、学内での募集サイトでボランティアやイベントの参加募集の告知を行っているため、学生はスムーズに閲覧できるようになった。内容に応じて、学生が応募用入力フォーム等で申し込み、学内でとりまとめて団体等への申し込みを実施するなど、スムーズな参加ができるようにした。また、活動用のユニフォームの支給など学生の活動をバックアップしている。

参加した学生は、ボランティア活動参加後に学びや気づきなどをヒューマンケアリングセンターに報告し、ヒューマンケアリングセンターは、さらなるボランティア活動を奨励するためまた交通費の代替として一律 QUO カードを進呈した。

学生ボランティアの募集依頼は 65 件と昨年度より増加した。また文化情報、保健・福祉・医療介護等に関連するアルバイト 8 件及びセミナー 9 件の紹介を行った。

また、ボランティア活動への意識を高めるために、1 年生を対象にボランティア講習会を開催した。

学生のボランティア活動の実績

ボランティア

| 活動日 | ボランティア 内容 | 人数 (人) | 学生の感想 (一部抜粋) |
|--------------------------------------|-------------------------------------|-----------|---|
| 4月2日 5月7日 6月4日 7月2日 8月6日 | 認知症カフェ n - café ひまわりでの 受付・接客等 | 25 | 接客だけでなく、休憩時間にコミュニケーションをとることで、自分から積極的に話しかけていく姿勢を学ぶことが出来た。コミュニケーションをとることは実習でも必要であるため、どの様な場所においても自分から話しかけていく力が必要になることを改めて気付かされた。 |
| 令和 5 年 4月16日 22日、30日 | ハンザヨットの準備・片付け、栈橋で障がいがある人の下船の補助 | 7 | 障がい者の方がハンザヨットを楽しむためには、準備や片付け、ヨットへの安全な乗り降りには健常者の支援が必要であり、障害者支援の重要性を感じることができた。 |

| | | | |
|-----------------|---|----|---|
| 4月22日 | ベビーマッサージの補助 | 9 | 兄弟もおらず、小さい子と触れ合う事がないため、赤ちゃんとお母さんがどのように触れ合っているのかわかることが出来てとても良かったです。小児看護に興味があるので、学びになりました。 |
| 5月14日 11月23日 | 竹の子の会 15番目の染色体に異常があるブラダーウィリー症候群の子のサポート | 4 | 今日活動してみて、実際にふれあい、話をしてどんな子かという距離感を掴み、一人一人のペースを合わせてサポートすることの大切さを学ぶことができました。難病の子供達に今何が出来るかを考えられる人になりたいと思いました。 |
| 5月20日 | G7広島サミットの 外務省が主催する 「パートナーズプログラム」の食事会で配膳 | 1 | G7サミットのボランティアに参加して広島の新しい魅力を発見することができました。加えて、緊迫した世界情勢の中平和都市広島で開催されたことがとても意味のあることを実感しました。この活動を通して日本のおもてなしの素晴らしさを実感するとともに、自分自身の語学力をより向上させたいと感じました。 |
| 6月2日 12月12日 | 「みんなの食堂」in 自然のめぐみキッチン運営サポート | | 普段、大学生活をしているだけでは関われない妊婦さんや親子連れと接することができ人の温かさや優しさを知れた。 |
| 6月4日 | 「広島県西部知的障害関係施設親善球技大会」の運営サポート | 29 | 今まであまり知的障害者の方と関わったことがなかったので、知的障害者へのサポートの仕方、関わり方や接し方を学ぶことができた。 |
| 8月5日 | 「第35回宮園夏祭り盆踊り大会」本部・救護スタッフ | 4 | 地域の集まりは大切だと感じました。普段は関わることのない世代の方ともたくさん話したことで、世代ごとの価値観や考え方などを感じることが出来ました。とても良い学びになりました。 |
| 8月20日 | 糖尿病の子供たちと4泊5日のサマーキャンプ | 5 | 1型糖尿病の子どもにとってサマーキャンプは1型糖尿病という病気に向き合えるイベントだと学んだ。企画運営等で準備が進まず、出航前日や到着後も企画運営を練っていたため、もう少し逆算して企画運営を考えていけばよかったと思いました。 |
| 9月3日 | 「第17回廿日市市・大竹市障がい者ふれあい交流スポーツ大会」の運営サポート | 6 | スタッフさんたちが忙しく動いておられ、最初はこういうことをしたらいいのか説明する余裕もなかった。その中で自分が出来ることを探し、スタッフさんに声をかけて一緒に行動するなど、支持されてから動くのではなく自分で考えて動くことの大切さを学んだ。 |

| | | | |
|---------------|--|----|--|
| 9月9日 | 「第60回全国重症心身障害児者を守る全国大会」受付/案内/会場整理、運営/接待/託児(重症児・者)係 | 1 | どれだけ周囲が理解して寄り添おうとしても、当事者にしか分からないことも必ずあり、同じ悩みや苦悩を抱える人たちで交流することの必要性を感じた。誰もが生きづらさを感じない環境づくりをすることが重要であると学んだ。 |
| 9月30日 | 四季が丘小学校防災キャンプの応急手当のサポート | 6 | 自分が教える立場になることで自分の学習にもなり、小学生や中学生と接することで離れた年齢の子との接し方を学ぶことができました。 |
| 10月14日 | くさのみ作業の「くさのみまつり」利用者のサポート | 4 | 利用者さんが笑顔になるのを間近で見ることができて嬉しかった。今後も実践の機会には積極的に参加して、臨機応変に技術を使えるように練習しておこうと思った。 |
| 11月5日 | あいプラザまつりの運営サポート | 31 | 様々な人が暮らす地域で一つになって何かをしたり、物を作ったり、健康について学ぶことにより人々が知識を身につけるだけでなく、笑顔になって心まで満たされることが実感できた。そのお手伝いを地域の人に時代に触れ合ってきたことがよかった。 |
| 11月23日 | NPO法人 nicoloop 自閉症の方の旅行のサポート | 2 | 発達障害を持っている方と一緒に旅行に行き、自立を促しながら行動することができた。すごくいい経験になった。ほかのボランティア活動も今後積極的に参加していきたいです。 |
| 12月9日 | 廿日市市障害者福祉協会主催「第20回クリスマス会」のサポート | 6 | 飲み物を提供する際に、その人に合わせて、目線を変えたり、話すスピードや話し方を変えたりして、看護での学びが看護の場以外でも活用できることを学びました。 |
| 12月9日 | 廿日市市社会福祉協議会 親子ふれあいウォーキングのサポート | 6 | 親子でのウォーキングの参加者の見守りと、休憩時の脈拍測定の指導を行いました。大人と子供など年代の幅が広がったため、それぞれの年代に合わせた観察が必要であることが学びました。 |
| 令和6年 1月23日 | スマホを快適に！ 高齢者対象のスマホ講座 | 5 | 自分の知識を人に教えることや、意味が伝わるように難しい言葉を使わず説明するということは、看護の場面でも多々あることなので、相手に理解してもらえるように説明することの参考になった。 |

| | | | |
|----------------|---|----|---|
| 2月10日 | 第22回阿品台地区 通学路清掃活動 清掃活動・本部運営 サポート | 11 | 活動を通して仲間とゴミの分別をしたり、ゴミを持ってきた方に対してのゴミ回収、パンを配ったりと積極的に活動することができた。朝早い活動だったがボランティアを通して様々な年代の方と関わることができて参加してよかったと思った。 |
| 12月23日 2月3日 | ぼこぼこトレイン 障害のある子もな い子も関係なく遊 べるオープンスペ ースで子どもたち と遊ぶ | 3 | 活動を通して様々な年齢の子どもと一緒に遊びながらコミュニケーションをとることができた。 また、お母さんの会話に混ぜてもらい、ダウン症をもつお母さんの生活の大変さを知りました。他にも、国際結婚をされている方から、生活の難しさなどのお話を聞くことができました。とても勉強になりました。 |
| 毎週木曜 | 夢あじなサロン | | 阿品台市民センターで開催されているサロンで、百歳体操を実施したり、食事を通して交流 |
| 第2・4木曜 | すくすくサロン(子 育てサロン) | | サロンのサポート 子どもの遊び相手 お母さんの話相手 季節の行事(クリスマス会など) |
| 第1・3金曜 | 0歳児のママ達の 茶話やかサロン | | サロンのサポート 子どもの遊び相手 お母さんの話相手 季節の行事(クリスマス会など) |
| 第1・3土曜 | お茶の間サロン「だ んだん」 | | 健康だんだん体操 企画イベント 食事とおしゃべり |

アルバイト

| | | | |
|------|------------------|--|-------------------------------------|
| 年間 | 廿日市市放課後児 童クラブ | | 児童の学習・遊びの見守り |
| 年間 | JA 広島総合病院 | | 学生看護補助者 |
| 夏休み中 | 広島市民病院 | | 看護部 夏季学生アルバイト |
| 年間 | 広島県赤十字血液 センター | | 献血ルーム「ピース」「もみじ」における献血者の受入・接遇及び推進業務等 |

講座

| | | |
|--------|-------------|---|
| 8月20日 | 広島県社会福祉協議会 | 今からはじめるボランティア |
| 11月30日 | 廿日市市社会福祉協議会 | 「ともに歩む地域社会 ボランティア活動の魅力再発見!!」～はつかいちの福祉ボランティアを知る～ |



認知症高齢者支援会議

<事業評価>

廿日市市社会福祉協議会主催の会議が隔月で行われている。参加団体は廿日市市（高齢介護課、健康推進課、地域包括支援センター）、廿日市市認知症の人と家族の会、廿日市市大野認知症の人と家族の会、認知症になっても安らぎのある廿日市市をつくる市民の会、廿日市市高齢者支援センター、老人クラブ連合会、廿日市市社会福祉協議会、日本赤十字広島看護大学である。参加する機関では、はいかいSOSネットワーク、はいかい高齢者家族支援サービス、認知症サポーター養成講座、認知症関連の講演会等を企画実施しており、この会議において関係機関に周知し、効率的かつ円滑な運営ができるよう情報共有に努めている。

この会議がきっかけとなり本学で実施することになった認知症サポーター養成講座は、今年度は、1年生を主な対象として130名が参加した。認知症サポーター養成講座にはキャラバン・メイトの方を講師に派遣していただき、有意義な学習の機会を得ることができた。今後、関係機関との情報交換を密にし、地域連携をさらに推進する。

<今後の課題>

この会議の目的は、関係団体の情報交換の場であるため、本学の実施事業の紹介や各機関が開催するイベント等の情報交換を密にし、高齢者関係事業における地域連携を推進する。

学内教員の社会活動

田村 由美

【学会発表】

田村由美, 吉田みつ子, 中川典子, 谷口千絵, 濱田真由美, 近末清美, 小野芳子, 吉田和美, 木村勇喜, 木下真吾, 宗内桂 (2023). 論文投稿から採択までの A to Z 学会発表の次にすることをお伝えします。チャレンジ論文投稿!。第 24 回日本赤十字看護学会学術集会, 仙台市.

【社会活動】

田村由美 (2023). 評議員. 日本赤十字学園.

田村由美 (2023). 委員. 日本赤十字学園グランドデザイン等策定検討委員会.

田村由美 (2023). 委員長. 日本赤十字学園入試制度グループワーキング.

田村由美 (2023). 理事. 日本私立看護系大学協会. (国際交流委員会委員長).

田村由美 (2023). 会員校代表. 日本看護系大学協議会

田村由美 (2023). 理事. 日本赤十字看護学会. (編集委員会委員長)

田村由美 (2023). 理事. 日本教師学学会. (企画委員会委員. 第 24 回年次大会長)

田村由美 (2023). 理事. 放射線被曝者医療国際協力推進協議会.

田村由美 (2023). 理事. 教育ネットワーク中国.

田村由美 (2023). 組織会員. 日本災害看護学会.

田村由美 (2023). 委員. 廿日市市保健福祉審議会.

田村由美 (2023). 委員. 廿日市市総合計画審議会.

田村由美 (2023). 企画委員長. 日本赤十字看護学会第 25 回学術集会企画委員会.

田村由美 (2023, 7). 非常勤講師. 「早期体験学習」IPW 講座, 神戸薬科大学, 神戸市.

田村由美 (2023, 7). 講師. 「リフレクションの概念」, 日本赤十字広島看護大学ヒューマンケアリングセンター 臨床指導者研修会.

田村由美 (2023, 8). 非常勤講師. 「チーム医療 (論) 演習および全学教員 FD」, 兵庫医科大学・神戸市.

田村由美 (2023, 8). シンポジスト「ターナーの臨床判断モデルをベースにした実践教育」, 日本看護研究学会. 横浜市. WEB 開催.

田村由美 (2023, 9). 演者. 特別講演「IPW としてのチームを考える」, 日本糖尿病教育・看護学学会第 28 回学術集会, 岡山市

田村由美 (2023, 10). 講師. 2023 年度認定看護管理者教育課程セカンドレベル, 奈良県看護協会, 奈良市.

田村由美 (2023, 10). 講師. 「ひとと組織の成長を促す看護におけるリフレクション」, 広島県看護協会, 広島市.

田村由美 (2023, 11). 講師. 「包括的性教育の推進－小中高における学校保健と看護学教育の連携－」, 日本私立看護系大学協会国際交流委員会, ライブ配信.

田村由美 (2023, 11). 講師. 「リフレクションの実践」, 広島赤十字・原爆病院, 広島市.

田村由美 (2023, 12). シンポジスト「福祉と医療はどうやってコラボをしていくか－真のウェルビーイング社会の実現に向けて－」, 文京学院大学, 東京都.

村田 由香

【学会発表】

村田由香, 宗内桂, 大林由美子, 谷口理恵 (2023). Appreciative Inquiry を活用した組織内プロジェクト活動の有効性の検討. 第 24 回日本赤十字看護学会学術集会, 仙台市.

津田ひとみ, 村田由香 (2023). 中規模病院のスタッフ看護師が捉える看護師長からの承認行為と看護チームの看護活動におけるチームワークとの関連. 第 27 回日本看護管理学会学術集会, 千代田区, ハイブリット開催.

野村悠美子, 村田由香 (2023). 新人看護師に関わる先輩看護師の教育的な役割遂行状況と学習する組織との関連. 第 27 回日本看護管理学会学術集会, 千代田区, ハイブリット開催.

今井多樹子, 三輪晃子, 宗内桂, 篠原謙太, 高田洋介, 門田清孝, 水馬朋子, 村田由香 (2023). 地域の視点で幅広い看護の対象理解を育む新たな基礎看護学実習「看護の基盤実習 I」の取り組み. 第 33 回日本看護学教育学会学術集会, 福岡市, ハイブリット開催.

【学術雑誌等掲載論文】

宗内桂, 村田由香, 篠原謙太 (2023). 総合看護実習 (学内実習) の学生による評価と今後の課題. 日本赤十字広島看護大学紀要, 23, 11-21.

村田由香 (2023). 臨床指導者研修会～共に創るポストコロナ時代の看護学実習教育～報告. 日本赤十字広島看護大学紀要, 23, 23-25.

【社会活動】

村田由香 (2023). 委員. 廿日市市男女共同参画推進懇話会委員 .

村田由香 (2023). 委員. 廿日市市国際化・多文化共生推進懇話会.

村田由香 (2023). 委員. 看護生涯教育・研修センター会議委員長, 広島県看護協会 .

村田由香 (2023). 専任査読委員. 日本赤十字看護学会.

村田由香 (2023). 専任査読委員. 日本看護管理学会.

村田由香 (2023). 評議員. 日本看護管理学会.

村田由香 (2023). 評議員. 日本赤十字看護学会 .

村田由香 (2023). 企画委員. 第 25 回日本赤十字看護学会学術集会.

村田由香 (2023). 座長. 第 24 回日本赤十字看護学会学術集会, 仙台市戦災復興記念館,

仙台市.

村田由香 (2023). 座長. 第 27 回日本看護管理学会学術集会, 東京国際フォーラム, 千代田区.

村田由香 (2023). 講師. 研究指導, 小野田赤十字病院, 小野田市.

村田由香 (2023). 講師. 認定看護管理者ファーストレベル教育課程 第 1.2 期 組織管理理論 I, 広島県看護協会, 広島市.

村田由香 (2023, 1). 講師. 看護管理者研修会 愛媛県看護協会, 松山市.

村田由香 (2023, 8). 講師. リーダーシップ研修, 日本赤十字和歌山医療センター, 和歌山市.

村田由香 (2023, 8). 講師. 新人看護職員研修事業 (実地指導者研修), 山口県看護協会, 防府市 .

村田由香 (2023, 8). 講師. リーダーシップ I・II 研修会, 中電病院, 広島市.

村田由香 (2023, 8). 講師. 認定看護管理者ファーストレベル教育課程, 看護記録, 日本赤十字社幹部看護師研修センター, オンライン.

村田由香 (2023, 8). 講師. 若手リーダーのためのリーダーシップ研修会, 愛知県看護協会, オンライン.

村田由香 (2023, 8). 講師. 山口県看護協会実地指導者研修会

村田由香 (2023, 9). 講師. リーダーシップ II 研修会, 中電病院, 広島市.

村田由香 (2023, 10). 講師. リーダーシップ III 研修会, 中電病院, 広島市.

【学外からの研究助成】

村田由香, 宗内桂. 中小規模病院のジェネラリスト看護職のリーダーシップ育成プログラムの作成. 基盤研究 C (一般), 平成 30 - 令和 5 年度.

村田由香, 宗内桂, 篠原謙太 . 中堅看護師のオーセンティックリーダーシップ開発プログラムの検討. 基盤研究 C (一般), 令和 5 年度 - 令和 7 年度.

篠原謙太, 村田由香. 多職種で活用するシャント閉塞予防に向けたシャントモニタリングプログラムの開発. 日本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究 C (一般), 令和 4 - 7 年度.

扇原淳, 水馬朋子, 村田由香. 地域の声を反映した防災教育をコアにした参加型共同プラットフォームの開発. 日本学術振興会学術研究助成基金助成金 挑戦的萌芽研究, 令和 5 - 8 年度.

奥村 ゆかり

【社会活動】

奥村ゆかり (2023, 1 - 5). 全国助産師教育協議会中国・四国地区長, 全国助産師教育協

議会.

奥村ゆかり (2023, 1 – 12). 全国助産師教育協議会シミュレーション小委員, 全国助産師教育協議会.

奥村ゆかり (2023, 1 – 12). 日本助産学会専任査読委員, 日本助産学会.

奥村ゆかり (2023, 1 – 3). 日本母性看護学会評議員, 日本母性看護学会.

奥村ゆかり (2023, 4). 講師. 大学生に対する性教育, 日本赤十字広島看護大学, 廿日市市.

奥村ゆかり (2022, 9 – 10). 講師. 新人助産師集合研修, 広島県看護協会, 広島市.

奥村ゆかり (2023, 7). 講師. 中学生に対する性教育, 岩国市立川下中学校, 岩国市.

奥村ゆかり (2023, 7). 講師. 中学生に対する性教育, 岩国市立灘中学校, 岩国市.

奥村ゆかり (2023, 9). 講師. 小学生に対する性教育, 広島市立府中南小学校, 府中市.

奥村ゆかり (2023, 9). 講師. 大学生に対する性教育, 広島修道大学, 広島市.

奥村ゆかり (2023, 10). 講師. 中学生に対する性教育, 岩国市立玖珂中学校, 岩国市.

奥村ゆかり (2023, 12). 講師. 中学生に対する性教育, 岩国市立平田中学校, 岩国市.

【学外からの研究助成】

奥村ゆかり, 勝田真由美, 中村敦子, 渡邊聡美. 学童期から大学生男女へのプレコンセプションケアを目指した教育プログラムの開発. 日本学術振興会学術研究助成基金助成金基盤研究C (一般), 令和2 – 5年度.

戸村 道子

【学術雑誌等掲載論文】

Tomura, M. (2023). Psychiatric nurses' experience of moral distress: Its relationship with empowerment and coping. *Nursing Ethics*, 30 (7-8), 1095-1113.

【社会活動】

戸村道子 (2023, 8). 講師. 日本精神科看護技術協会研修会, 日本精神科看護技術協会広島県支部, 広島市.

戸村道子 (2023, 12). 講師. 広島県看護協会研修会, 広島県看護協会三次・庄原支部, 三次市.

戸村道子 (2023). 委員. こころの健康づくり委員会, 健康はつかいち 21 推進協議会, 廿日市市.

Tomura, M. (2023). 査読委員. *Nursing Ethics*, Sage Journal.

【学外からの研究助成】

戸村道子, 笹本美佐, 上園愛. 精神科看護師の倫理的レジリエンス: 職場環境とケアの質と

の関連モデル構築。日本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究C（一般），令和2 - 5年度。

田上美千佳，鈴木美央，寺岡征太郎，片山健吾，戸村道子。精神科外来の可能性を探求するパンデミック下をふまえた包括的看護支援方法の開発。日本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究B（一般），令和5 - 10年度。

矢野 博史

【社会活動】

矢野博史（2023，1 - 3）。事務局長，日本教師学学会第24回大会実行委員会，日本教師学学会，廿日市市。

矢野博史（2023，3）。座長。日本教師学学会第24回大会講演 教育者と学習者の成長を引き出す組織づくり，日本教師学学会。廿日市市。

矢野博史（2023，6）。講師。広島大学病院看護部研修会，広島大学病院，広島市。

矢野博史（2023，8）。講師。令和5年度山口県新人看護職員研修（教育担当者）研修会，山口県看護協会，防府市。

矢野博史（2023，9）。講師。令和5年度広島県保健師助産師看護師実習指導者講習会，広島県看護協会，広島市。

朝原 秀昭

【社会活動】

朝原秀昭（2023，4 - 9）。非常勤講師。臨床医学概論Ⅲ，山陽女子短期大学，廿日市市。

朝原秀昭（2023）。委員長。認知症初期集中支援チーム検討委員会，廿日市市役所，廿日市市。

今井 多樹子

【学術雑誌等掲載論文】

今井多樹子，永井庸央，中垣和子（2023）。A大学における周手術期看護をめぐる学修内容：Text Mining による課題レポートの内容分析から。日本赤十字看護学会誌。24（1），43-52。

Takiko Imai（2023）。Tips for papers' acceptance from a peer review perspective. Journal of International Nursing Research. 2（2），17。

石橋采佳，今井多樹子（2023）。救急・集中治療領域において予期せぬ患者の死を経験する家族への看護の様相。日本救急看護学会誌，25，29-40。

横山知子，今井多樹子（2023）。誤嚥のリスクが高い患者の食事介助に関わる看護師による

観察の視点と教育的課題：テキストマイニングによる看護記録の分析から。国立病院看護研究学会誌，19（1），11-21.

【学会発表】

今井多樹子, 村田由香, 水馬朋子, 三輪晃子, 宗内桂, 高田洋介, 篠原謙太, 門田清孝(2023).

地域の視点で幅広い看護の対象理解を育む 新たな基礎看護学実習「看護の基盤実習Ⅰ」の取り組み。日本看護学教育学会第33回学術集会，福岡市。

法橋尚宏, 吉永尚紀, 今井多樹子, 深井喜代子（2023）。採択される論文ライティングのエッセンス。日本看護研究学会 英文誌編集委員会企画セミナー，Web 開催。

【社会活動】

今井多樹子（2023）。代議員。日本看護科学学会。

今井多樹子（2023，12）。座長。第43回日本看護科学学会学術集会，海峡メッセ下関 下関市生涯学習プラザ，下関市。

今井多樹子（2023）。査読者（演題抄録）。第43回日本看護科学学会学術集会。

今井多樹子（2023）。専任査読委員。日本看護科学学会「日本看護科学会誌」。

今井多樹子（2023）。専任査読委員。日本看護研究学会「日本看護研究学会雑誌」。

今井多樹子（2023）。専任査読者。日本看護学教育学会「日本看護学教育学会誌」。

今井多樹子（2023）。専任査読委員。日本質的心理学会「質的心理学研究」。

今井多樹子（2023）。査読者。大原記念労働科学研究所 学術誌「労働科学」。

今井多樹子（2023）。査読者。国際看護哲学研究会 論文誌「キャリアと看護研究」。

今井多樹子（2023）。企画委員。第25回日本赤十字看護学会学術集会。

今井多樹子（2023）。講師。看護研究指導。独立行政法人国立病院機構 呉医療センター。呉市。

今井多樹子（2023）。講師。看護研究指導。独立行政法人国立病院機構 呉医療センター附属呉看護学校。呉市。

今井多樹子（2023）。講師。看護研究指導。独立行政法人国立病院機構 東広島医療センター。東広島市。

【学外からの研究助成】

今井多樹子, 折山早苗. 新人看護師が複数患者を受け持つ体制下で求められる多重課題対応力の育成に関する研究。日本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究C（一般）。令和4 - 令和7年度。

川西 美佐

【学術雑誌等掲載論文】

日本赤十字看護学会歴史研究委員会, 大西智子, 大林由美子, 川原由佳里, 川西美佐, 村瀬智子, 力石陽子, 石谷操 (2023). 時を超えて甦る〈赤十字の記憶〉－コロナ禍のいま, 日赤の感染症対策の歴史を振り返る－. 日本赤十字看護学会誌, 24 (1), 83-88.

Yoshida, F., Conti, G. J., Yamauchi, T., Kawanishi, M., (2023). Learner-Centeredness vs. Teacher Centeredness: How Are They Different?. Journal of Education and Learning, 12 (5) . 1-12.

【学会発表】

日本赤十字看護学会歴史研究委員会, 大林由美子, 川原由佳里, 村瀬智子, 川西美佐, 力石陽子, 石谷操, 三浦嘉意 (2023). 東北での震災の歴史を未来へ紡ぐ－震災の危機を乗り越えて－. 日本赤十字看護学会第 24 回学術集会, 仙台市.

永瀨あかり, 古藤桃咲, 佐伯美奈子, 堤彩羽, 川西美佐 (2023). 病院における身体拘束最小化の取り組みに関する文献レビュー. 日本赤十字看護学会第 24 回学術集会, 仙台市.

川西美佐 (2023). シンポジウム 1 コロナを経て考える教育方法の温故知新 ヒトと人間で「人」を観る力を育てるフィジカルアセスメント教育. 日本看護学教育学会第 33 回学術集会, 福岡市.

【社会活動】

川西美佐 (2023). 評議員. 日本赤十字看護学会.

川西美佐 (2023). 歴史研究委員. 日本赤十字看護学会歴史研究委員会.

川西美佐 (2023, 2, 4, 6). 講師. 看護研究指導, 松江赤十字病院, 松江市.

川西美佐 (2023, 11, 12). 非常勤講師. 広島県立広島皆実高等学校専攻科, 広島市.

川西美佐 (2023, 3) 講師. 実習前 CBT および OSCE を導入している大学から 学生が成長を実感し課題を明確にして実習に臨むための支援, 日本看護系大学協議会高等教育行政対策委員会企画 Academic Administration 研修会, 臨地参加型実習の実施を目指して 看護学基礎教育から臨床への連続システムを探る, Web 開催.

【学外からの研究助成】

川西美佐, 三林洋介, 吉田文子, 注射処方箋なぞり読みトレーニングツールの汎用化に向けた看護教育パッケージ開発. 日本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究 C (一般), 平成 31 – 令和 5 年度.

吉田文子, 山内豊明, 川西美佐. 教育観尺度 (日本語版) の開発: 教育観とティーチングスタイル選択との関係. 日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究 C (一般), 令和 5 年 – 令和 9 年度.

Simon Capper

【著書】

Kadoyama, T., Capper, S. (2022) . A Communicative Approach to the TOEIC L&R Test Book 2:Intermediate. Seibido Publishing Co. Ltd.

【社会活動】

Capper, S. (2023, 1-12) . Member-at-large. Hiroshima Chapter, JALT (The Japan Association for Language Teaching) , Hiroshima.

Capper, S. (2023, 1-12). Adjunct Professor. Hiroshima Shudo University, Hiroshima.

Capper, S. (2023, 1-12) . Executive Director. JANET (Japan Association for Nursing English Teaching) ,Fukuoka.

Capper, S. (2023, 1-12) . Treasurer, JANET (Japan Association for Nursing English Teaching) , Fukuoka.

【学外からの研究助成】

Capper, S., Porter, M., Willey, I., & Watanabe, A. An analysis of the English language needs of nurses in Japan. 日本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究C (一般), 平成30 – 令和5年度.

中信 利恵子

【学会発表】

笠谷美保, 風間郁子, 中信利恵子, 菅野久美, 菅原よしえ, 今津陽子, 岩永和代, 村松真実, 天野薫, 岸田さな江, 三浦浅子 (2023). 交流集会 SIG 災害看護企画 地域特性を考慮したがん患者と家族に対する災害支援 – 都市, 地方ならではのご当地災害対策について話し合おう – . 第37回日本がん看護学会学術集会, 横浜市.

【社会活動】

中信利恵子 (2023). 査読委員. 高知女子大学看護学会.

中信利恵子 (2023). 査読委員. 日本災害看護学会.

中信利恵子 (2023). 和文誌専任査読委員. 日本看護科学学会.

中信利恵子 (2023). 専任査読者. 日本糖尿病教育・看護学会.

中信利恵子 (2023, 4 – 5). 査読委員. 第28回日本糖尿病教育・看護学会学術集会.

中信利恵子 (2023, 5). 査読委員. 日本災害看護学会第25回年次大会.

中信利恵子 (2023, 9). 座長. 日本災害看護学会第25回年次大会, アクリエひめじ, 姫路市.

中信利恵子 (2023). 企画委員. 第25回日本赤十字看護学会学術集会.

中信利恵子 (2023). 代議員. 日本災害看護学会.

中信利恵子 (2023). 評議員. 日本慢性看護学会.

中信利恵子 (2023). メンバー. SIG 災害看護 (特別関心活動グループ), 日本がん看護学

会.

中信利恵子 (2023). メンバー. ネットワーク活動・調査調整部, 日本災害看護学会.

中信利恵子 (2023, 9-12). 委員. 災害看護倫理検討委員会, 日本災害看護学会.

【学外からの研究助成】

中信利恵子. 通院治療を行うがん患者と看護師の災害への備えと看護に関する基礎的研究.

日本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究C (一般), 平成2-6年度.

百田 武司

【著書】

百田武司, 森山美知子 (編著) (2023). エビデンスに基づく脳神経看護ケア関連図 改訂版.
中央法規出版.

【学術雑誌等掲載論文】

百田武司 (2023). 日本脳神経看護研究学会の現状と将来展望. 日本脳神経看護研究学会誌,
45 (2), 79-80.

百田武司 (2023). 日本脳神経看護研究学会名誉会員授与式の報告. 日本脳神経看護研究学会誌,
45 (2), 109.

宮本享, 小笠原邦昭, 橋本洋一郎, 藤本茂, 竹川英宏, 和田邦泰, 井口保之, 片岡大治,
豊田章宏, 富永悌二, 百田武司, 武田保江, 田村綾子, 大久保暢子, 野口百香, 早坂由
美子, 林真紀, 星野由利子, 藤井由記代, 取出涼子, 笠松信幸, 和久美恵, 斉藤秀之,
大畑光司, 立石雅子, 深浦順一 (2023). 脳卒中相談窓口マニュアル 一般社団法人日
本脳卒中学会 Version 2.0 (2023.3.19). 1-48, 一般社団法人日本脳卒中学会 HP,
https://www.jsts.gr.jp/img/consultation_manual_ver2.0.pdf

日本脳腫瘍学会脳腫瘍支持療法委員会, 山下信人, 川合茜, 松岡藍子, 櫻田香, 百田武司,
成田善孝 (2023). 失語症のある患者さんの在宅ケア, 日本脳腫瘍学会 HP,
<https://www.jsn-o.com/careinfo/PDF/02.pdf>

日本脳腫瘍学会脳腫瘍支持療法委員会, 池本智義, 川合茜, 櫻田薫, 野村恵子, 百田武司,
成田善孝 (2023). 脳腫瘍支持療法パンフレット 麻痺のある患者さんの在宅ケア, 日本
脳腫瘍学会 HP, <https://www.jsn-o.com/careinfo/PDF/03.pdf>

日本脳腫瘍学会脳腫瘍支持療法委員会, 新林正子, 山下信人, 廣瀬真由美, 櫻田薫, 野村恵
子, 百田武司, 成田善孝 (2023). 脳腫瘍支持療法パンフレット 摂食嚥下障害のある患
者さんのケア, 日本脳腫瘍学会 HP, <https://www.jsn-o.com/careinfo/PDF/06.pdf>

日本脳腫瘍学会脳腫瘍支持療法委員会, 杉本智波, 松岡藍子, 野村恵子, 百田武司, 成田善
孝 (2023). 脳腫瘍支持療法パンフレット 高次脳機能障害のある患者さんの在宅ケア,
日本脳腫瘍学会 HP, <https://www.jsn-o.com/careinfo/PDF/07.pdf>

Sato. M. & Hyakuta.T. (2023) . Awareness and support for post-stroke fatigue among medical professionals in the recovery phase rehabilitation ward. Japanese Journal of Comprehensive Rehabilitation Science, 14,39-48.

百田武司 (2023). 急性期から在宅まで活用できる!! 脳神経内科疾患と看護 (1章) 脳神経内科の症状別看護 不随意運動. Brain Nursing, (2023 夏季増刊), 40-43.

百田武司 (2023). 急性期から在宅まで活用できる!! 脳神経内科疾患と看護 (1章) 脳神経内科の症状別看護 呼吸障害. Brain Nursing, (2023 夏季増刊), 18-22.

百田武司 (2023). 急性期から在宅まで活用できる!! 脳神経内科疾患と看護 (1章) 脳神経内科の症状別看護 筋力低下. Brain Nursing, (2023 夏季増刊), 44-47.

百田武司 (2023). 急性期から在宅まで活用できる!! 脳神経内科疾患と看護 (1章) 脳神経内科の症状別看護 脳神経内科で必要な看護とは. Brain Nursing, (2023 夏季増刊), 10-11.

百田武司 (2023). 急性期から在宅まで活用できる!! 脳神経内科疾患と看護 (1章) 脳神経内科の症状別看護 運動麻痺. Brain Nursing, (2023 夏季増刊), 12-17.

佐藤美紀子, 百田武司 (2023). 【脳神経ナースが説明できなければいけない 脳卒中の後遺症とのかかわり】脳卒中後疲労. Brain Nursing, 39 (5), 710-718.

大西奈緒, 百田武司 (2023). 【脳神経ナースが説明できなければいけない 脳卒中の後遺症とのかかわり】血管性認知症. Brain Nursing, 39 (5), 728-735.

山本義昭, 百田武司 (2023). 【脳神経ナースが説明できなければいけない 脳卒中の後遺症とのかかわり】脳卒中後不眠. Brain Nursing, 39 (5), 719-727.

橘千恵, 百田武司 (2023). 【脳神経ナースが説明できなければいけない 脳卒中の後遺症とのかかわり】脳卒中後うつ. Brain Nursing, 39 (5), 701-709.

【学会発表】

佐藤美紀子, 石飛拓朗, 百田武司 (2023). 脳卒中当事者会と医療従事者・看護学?・教育研究者・行政職の協働. 第10回日本ニューロサイエンス看護学会学術集会, Web 開催.

大西奈緒, 百田武司, 山本浩子, 中村もとゑ (2023). 高齢心不全外来患者の心不全セルフケア行動に影響する背景要因. 日本老年看護学会第28回学術集会, 横浜市・Web 開催.

山本義昭, 百田武司 (2023). 入院中の不眠のある回復期脳卒中患者への主観的睡眠感改善プログラムによる睡眠促進行動への効果. 第50回日本脳神経看護研究学会, 金沢市.

佐藤美紀子, 百田武司, 伊藤千加子, 森脇加寿恵 (2023). 脳卒中後疲労セルフマネジメントプログラム: 実現可能性試験 - 初期疲労患者への効果の検討 -. 第50回日本脳神経看護研究学会, 金沢市.

木下真吾, 百田武司 (2023). 脳卒中患者の家庭血圧測定行動の獲得を目指したプログラムの効果: 診療ガイドライン遵守に関する評価. 第50回日本脳神経看護研究学会, 金沢市.

百田武司, 木下真吾, 横井靖子, 飯山有紀 (2023). 脳卒中患者への ADL を強化する看護ケアの実態脳卒中看護認定看護師の重要度の認識と所属部署の実施状況. 第 43 回日本看護科学学会学術集会, 下関市.

山本義昭, 百田武司 (2023). 入院中の不眠のある回復期脳卒中患者への主観的睡眠感改善プログラムの効果: 無作為化比較試験. 第 43 回日本看護科学学会学術集会, 下関市.

【社会活動】

百田武司 (2023). 理事長. 日本脳神経看護研究学会.

百田武司 (2023). 委員長. 日本脳神経看護研究学会社会貢献・広報委員会.

百田武司 (2023). 会長. 日本脳神経看護研究学会広島地方部会.

百田武司 (2023). 理事. 日本ニューロサイエンス看護学会.

百田武司 (2023). 社員. 一般社団法人看護系学会等社会保険連合 (加盟学会: 日本ニューロサイエンス看護学会).

百田武司 (2023). 査読委員. 日本ニューロサイエンス看護学会.

百田武司 (2023). 理事. 特定非営利活動法人日本脳神経外科救急学会.

百田武司 (2023). 副幹事. 特定非営利活動法人日本脳神経外科救急学会編集委員会.

百田武司 (2023). 社員 (代議員). 公益社団法人日本看護科学学会.

百田武司 (2023). 和文誌専任査読委員. 公益社団法人日本看護科学学会.

百田武司 (2023). 代議員. 一般社団法人日本老年看護学会.

百田武司 (2023). 査読委員. 一般社団法人日本老年看護学会.

百田武司 (2023). 代議員. 一般社団法人日本認知症ケア学会.

百田武司 (2023). 副会長. 日本認知症ケア学会広島県認知症ケア専門士会.

百田武司 (2023). 評議員. 一般社団法人日本看護学教育学会.

百田武司 (2023). 専任査読者. 一般社団法人日本看護学教育学会.

百田武司 (2023). 専任査読委員. 一般社団法人日本看護研究学会.

百田武司 (2023). 代議員. 一般社団法人日本災害看護学会.

百田武司 (2023). 講師. JR 広島病院看護部, 広島市.

百田武司 (2023) 外部委員. 特定非営利活動法人日本脳腫瘍学会 脳腫瘍支持療法委員会.

百田武司 (2023). 委員長. 広島市高齢者虐待防止ネットワーク事業 西区運営委員会.

百田武司 (2023). 企画委員. 第 43 回日本看護科学学会学術集会事務局・企画委員会.

百田武司 (2023, 1 - 3). 事務局長. 第 42 回日本看護科学学会学術集会事務局・企画委員会.

百田武司 (2023, 1 - 3). 委員. 日本脳神経看護研究学会編集委員会.

百田武司 (2023, 1 - 3). 査読委員. 日本脳神経看護研究学会.

百田武司 (2023, 1 - 6). 査読委員. 一般社団法人日本災害看護学会.

- 百田武司 (2023, 2 – 3). 査読者. 日本老年看護学会第 28 回学術集会.
- 百田武司 (2023, 3). 講師. 第 10 回日本ニューロサイエンス看護学会学術集会. 教育セミナー 1「百田先生に聞きたい 私の研究探訪『質的研究から研究の水脈を広げて、今』」, Web 開催.
- 百田武司 (2023, 3). 査読者. 日本看護学教育学会第 33 回学術集会.
- 百田武司 (2023, 3). 座長. 第 47 回日本脳卒中学会学術集会 シンポジウム 16「発症から在宅生活までを支える脳卒中看護の最前線」, 横浜市ハイブリッド開催.
- 百田武司 (2023, 3). 座長. 第 47 回日本脳卒中学会学術集会 看護シンポジウム 2「脳卒中看護分野の特定行為研修終了者に期待される新たな価値共創(コ・クリエーション)」, 横浜市ハイブリッド開催.
- 百田武司 (2023, 5). 査読者. 日本災害看護学会第 25 回年次大会.
- 百田武司 (2023, 7). 座長. 第 1 回脳腫瘍支持療法研究会, 研究会発足特別企画 患者・介護者へのアンケート調査報告, 東京都文京区.
- 百田武司 (2023, 7). 査読者. 第 43 回日本看護科学学会学術集会.
- 百田武司 (2023, 8). 座長. 日本看護学教育学会第 33 回学術集会, 口演発表 7「臨地実習②」, 福岡市.
- 百田武司 (2023, 9). 座長. 日本災害看護学会第 25 回年次大会. 一般演題 口演 4 (COVID-19 への対応), 姫路市.
- 百田武司 (2023, 9). 講師. ブレインナーシング特集連動セミナー 脳卒中の後遺症とそのかかわり 要点“だけ”まるおさえセミナー, メディカ出版, Web 開催.
- 百田武司 (2023, 9). 座長. 第 50 回日本脳神経看護研究学会. 教育講演 1 せん妄、アパシー脳卒中後うつ, 金沢市.
- 百田武司 (2023, 9 – 12). 委員. 一般社団法人日本災害看護学会 災害看護ケアの質向上委員会.
- 百田武司 (2023, 10). 講師. 広島県保健師助産師看護師実習指導者講習会, 広島県看護協会, 広島市.
- 百田武司 (2023, 10 – 11). 審査員. 第 19 回認知症ケア専門士認定試験 2 次試験 (論述審査員).
- 百田武司 (2023, 11 – 12). 構成員. 日本脳神経看護研究学会 学会認定資格設立準備ワーキンググループ.
- 百田武司 (2023, 12). 座長. 第 43 回日本看護科学学会学術集会, 教育講演 1「未来を拓く看護と哲学」, 下関市.
- 【学外からの研究助成】
- 百田武司, 木下真吾. 回復期脳卒中患者の日常生活動作を強化する看護ケアのベストプラク

ティス開発. 日本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究C (一般), 平成 31 – 令和 5 年度.

山本浩子, 百田武司. 焦燥性興奮のある認知症高齢者への入眠前のハンドマッサージの効果の検証と導入. 日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究C (一般), 令和 2 年度 – 5 年度.

林真二, 百田武司. 地域高齢者のオーラルフレイルを予防するための地域づくりプロジェクト. 日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究C (一般), 令和 2 年度 – 5 年度.

中村もとゑ, 百田武司. 在宅高齢者のドライスキンを改善するセルフケア教育プログラムの開発と効果. 日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究C (一般), 令和 2 年度 – 5 年度.

大久保暢子, 佐々木杏子, 南川貴子, 百田武司, 武田保江. 重度脳卒中患者に対する家族参加型背面開放座位ケアプログラムの構築と評価. 日本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究B (一般), 令和 3 – 7 年度.

百田武司, 木下真吾. 脳卒中患者の日常生活動作を強化する看護ケアプログラムの有効性検証の多施設共同試験. 日本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究B (一般), 令和 4 – 8 年度.

山村 美枝

【社会活動】

山村美枝 (2023, 12). 講師. 岡山県看護研修センター教育研修, 岡山県看護協会, 岡山市.

山村美枝 (2023). 専門委員. 大竹市健康増進計画及び大竹市食育推進計画策定委員会, 大竹市健康福祉部, 大竹市.

山村美枝 (2023). 専門委員. 廿日市市福祉保健審議会児童福祉専門部会, 廿日市市福祉保健部, 廿日市市.

山村美枝 (2023). 評価員. 日本看護学教育評価機構.

山村美枝 (2023). 理事, 評議員. 国際ケアリング学会.

山村美枝 (2023). 専任査読者. 日本小児看護学会.

山村美枝 (2023). 専任査読委員. 日本赤十字看護学会.

山村美枝 (2023). 専任査読委員. 日本小児保健協会.

渡邊 智恵

【学会発表】

Nishigami, A. Watanabe, T., Matsumoto, A, Miyaoka, Y. (2023) . Literature Review on Disaster Prevention Literacy of Hospital-Based Nurses, The 26th East Asian

Forum of Nursing Scholars Conference, Tokyo.

前川志保, 渡邊智恵 (2023). 被災地に派遣された看護職者に対して組織が行った支援に関する文献レビュー. 日本災害看護学会第 25 回年次大会. 姫路市.

渡邊智恵, 西上あゆみ, 藤井知美 (2023). 風水害を経験した被災者が認識した復興感に関する調査. 第 43 回日本看護科学学会学術集会. 下関市.

【社会活動】

渡邊智恵 (2023). 災害看護専門看護師分科会委員長. 日本看護系大学協議会専門看護師教育課程認定委員.

渡邊智恵 (2023). 代議員. 日本災害看護学会.

渡邊智恵 (2023). 理事. 日本災害看護学会.

渡邊智恵 (2023). 企画委員. 日本災害看護学会第 26 回年次大会.

渡邊智恵 (2023). 委員長. 日本災害看護学会 災害看護ケアの質向上委員会.

渡邊智恵 (2023). 委員長. 日本災害看護学会 募金活動委員会.

渡邊智恵 (2023). 委員. 日本災害看護学会 ネットワーク活動委員会.

渡邊智恵 (2023). 委員. 日本災害看護学会 学術用語検討委員会.

渡邊智恵 (2023). 査読委員. 日本災害看護学会第 25 回年次大会.

渡邊智恵 (2023). 査読委員. 日本災害看護学会.

渡邊智恵 (2023). 査読委員. 日本赤十字看護学会.

渡邊智恵 (2023). 専門委員. 廿日市市防災会議.

渡邊智恵 (2023). 座長. 災害訓練, 日本災害看護学会第 25 回年次大会. 姫路市.

渡邊智恵 (2023). 座長. 災害看護・赤十字, 第 24 回日本赤十字看護学会学術集会. 仙台市.

渡邊智恵 (2023). 災害看護学, 横浜市立大学, 横浜市.

渡邊智恵 (2023). 講師. 災害看護活動論, 聖カタリナ大学, 松山市.

渡邊智恵 (2023). 講師. 災害看護学, 西九州大学, 佐賀市.

渡邊智恵 (2023). 講師. 認定看護管理者セカンドレベル教育, 広島県看護協会, 広島市.

渡邊智恵 (2023). 講師. 認定看護管理者サードレベル教育, 広島県看護協会, 広島市.

渡邊智恵 (2023). 講師. 地域防災, 阿品中学校. 廿日市市.

渡邊智恵 (2023). 講師. 看護という仕事, 安田中学校. 広島市.

渡邊智恵 (2023). 講師. 幼児安全法, 広島県支部. 広島市.

【学外からの研究助成】

渡邊智恵, 西上あゆみ, 藤井知美. 風水害後の被災者の復興過程と復興感に関する調査. 日本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究 C (一般), 令和元年 - 令和 5 年度.

西上あゆみ, 渡邊智恵. 病院勤務の看護師の防災リテラシーの実態と向上. 基盤研究 C (一

般), 令和3年 - 5年度.

水馬 朋子

【学会発表】

今田菜摘, 水馬朋子, 松原みゆき (2023). 1歳6か月児をもつ母親のヘルスリテラシーに関連する要因. 日本地域看護学会第26回学術集会, 川崎市ハイブリッド開催.

今井多樹子, 三輪晃子, 宗内桂, 篠原謙太, 高田洋介, 門田清孝, 水馬朋子, 村田由香 (2023). 地域の視点で幅広い看護の対象理解を育む 新たな基礎看護学実習「看護の基盤実習Ⅰ」の取り組み. 日本看護学教育学会第33回学術集会, 福岡市.

眞崎直子, 田中貴子, 水馬朋子, 松原みゆき, 榮田絹代, 今田菜摘, 古賀聖典 (2023). 交流集会 都市型準限界集落のソーシャルキャピタルコーディネーター育成プログラム開発と評価. 第43回日本看護科学学会学術集会, 下関市.

【社会活動】

水馬朋子 (2023). 評議員・査読委員. 一般社会法人日本看護学教育学会.

水馬朋子 (2023). 選出理事・査読委員. 日本医学看護学教育学会.

水馬朋子 (2023). 中国・四国ブロック委員・査読委員. 一般社団法人全国保健師教育機関協議会.

水馬朋子 (2023). 委員. 広島県国民健康保険団体連合会保健事業支援・評価委員会, 広島市.

水馬朋子 (2023). 委員. 広島県西部地域保健対策協議会専門部会, 廿日市市.

水馬朋子 (2023). 委員. 健康たけはら21推進委員会, 竹原市保健センター, 竹原市.

水馬朋子 (2023). 委員. 竹原市食育推進行動計画検討委員会, 竹原市保健センター, 竹原市.

水馬朋子 (2023). 委員. 令和5年度専任教員継続研修実務者会議, 広島県看護協会, 広島市.

水馬朋子 (2023). 委員. 廿日市市建築審査会, 廿日市市役所, 廿日市市.

水馬朋子 (2023). 講師. 保健関係職員研修, 市町村保健活動協議会廿日市支部, 廿日市市.

【学外からの研究助成】

扇原淳, 浅田匡, 水馬朋子, 村田由香. 地域の声を反映した防災教育をコアとした参加型協働プラットフォームの開発. 日本学術振興会学術研究助成基金助成金 挑戦的研究(萌芽), 令和5 - 7年度.

奥村 英則

【学会発表】

奥村英則 (2023). 局所尤度推定における変数選択. 2023 年度統計関連学会連合大会, 京都市.

【社会活動】

Okumura, H. (2022). Mathematical Reviews Reviewer. The American Mathematical Society.

中村 敦子

【社会活動】

中村敦子 (2023). 講師. 岩国市子育て推進班事業, ベビーマッサージ, 岩国市.

中村敦子 (2023). 事務局. 中四国 M-GTA 研究会, 広島市.

中村敦子 (2023). 企画委員. 第 43 回日本看護科学学会学術集会, 山口市.

中村敦子 (2023). 企画委員. 第 25 回日本赤十字看護学会学術集会, 廿日市市.

中村敦子 (2023). 委員. 日本私立看護系大学協会, 国際交流委員会, 千代田区.

中村敦子 (2023). 専任査読者. 日本助産学会, 荒川区.

中村敦子 (2023, 4). 講師. 大学生に対する性教育, 日本赤十字広島看護大学, 廿日市市.

中村敦子 (2023, 4). 選挙管理委員. 一般社団法人広島県助産師会総会, 広島市.

中村敦子 (2023, 7). 講師. 中学生に対する性教育, 岩国市立川下中学校, 岩国市.

中村敦子 (2023, 7). 講師. 中四国 M-GTA 研究会定例研究会, 広島市.

中村敦子 (2023, 7). 講師. 中学生に対する性教育, 岩国市立灘中学校, 岩国市.

中村敦子 (2023, 9). 講師. 小学生に対する性教育, 府中町立府中南小学校, 府中町.

中村敦子 (2023, 9). 講師. 大学生に対する性教育, 広島修道大学, 広島市.

中村敦子 (2023, 10). 講師. 中学生に対する性教育, 岩国市立玖珂中学校, 岩国市.

中村敦子 (2023, 11). 講師. 日本私立看護系大学協会, 国際交流委員会主催研修会, 千代田区.

中村敦子 (2023, 11). 講師. 公益社団法人広島県助産師会, いいお産の日記念行事, 広島市.

中村敦子 (2023, 12). 講師. 中学生に対する性教育, 岩国市立平田中学校, 岩国市.

中村敦子 (2023, 12). 座長. 第 43 回日本看護科学学会学術集会, 海峡メッセ下関, 下関市.

【学外からの研究助成】

奥村ゆかり, 勝田真由美, 中村敦子, 渡邊聡美. 学童期から大学生男女へのプレコンセプションケアを目指した教育プログラムの開発. 日本学術振興会学術研究助成基金助成金基盤研究 C (一般), 令和 2 - 5 年度.

中村 もとゑ

【著書】

中村もとゑ, 百田武司 (2023). レビー小体型認知症. 百田武司, 森山美知子編, エビデンスに基づく脳神経看護ケア関連図 改訂版. (pp.306-315). 中央法規出版.

百田武司, 山本浩子, 中村もとゑ, 木下真吾 (2023). 認知症. 百田武司, 森山美知子編, エビデンスに基づく脳神経看護ケア関連図 改訂版. (pp.274-281). 中央法規出版.

【社会活動】

中村もとゑ (2023, 6 - 12). 実行委員. 第 25 回日本赤十字看護学会学術集会.

中村もとゑ (2023). 幹事. 日本赤十字広島看護大学同窓会.

【学外からの研究助成】

中村もとゑ, 百田武司. 在宅高齢者のドライスキンを改善するセルフケア教育プログラムの開発と効果. 日本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究 C (一般), 令和 2 - 4 年度.

松原 みゆき

【著書】

松原みゆき (2023). 生活を支えるコミュニケーション技術. 河野あゆみ編, 新体系看護学全書準拠 地域・在宅看護論まとめノート 別冊解答付. (pp.170-174). メヂカルフレンド社.

【学会発表】

今田菜摘, 水馬朋子, 松原みゆき (2023). 1 歳 6 か月児をもつ母親のヘルスリテラシーに関連する要因. 日本地域看護学会第 26 回学術集会, 川崎市ハイブリッド開催.

眞崎直子, 田中貴子, 鈴木寿, 松原みゆき, 橋本修二, 立森久照, 竹島正 (2022). 大刀洗町における保健事業と介護予防一体的実施に関する研究 (第 2 報), 第 82 回日本公衆衛生学会, つくば市.

松原みゆき, 河野あゆみ (2023). 訪問看護師が新人期に提供された職場内教育と 6 か月後のワーク・エンゲイジメントとの関連. 第 28 回在宅ケア学会学術集会, 吹田市.

松原みゆき, 河野あゆみ (2022). 訪問看護師が新人期に提供された職場内教育が 6 か月後の単独訪問の実施に与える影響. 第 43 回日本看護科学学会学術集会, 下関市.

【社会活動】

松原みゆき (2023). アドバイザー. 広島西医療圏訪問看護推進協議会, 廿日市市.

松原みゆき (2023). 委員. 廿日市市保健福祉審議会健康増進専門部会, 廿日市市.

松原みゆき (2023). 委員. 広島県看護協会 在宅医療の人材 (訪問看護師) 確保のための推進事業検討委員会, 広島市.

松原みゆき (2023). 委員. JA 広島総合病院 地域医療支援病院諮問委員, 廿日市市.
松原みゆき (2023. 5). 講師. 看護部院内研修会, 広島大学病院, 広島市.
松原みゆき (2023. 9). 2022 年度ファーストレベル教育課程 社会保障制度概論, 広島大学病院, 広島市.
松原みゆき (2022. 10). 講師. 廿日市市介護予防・生活支援員養成研修, 廿日市高齢者ケアセンター, 廿日市市.
松原みゆき (2023. 12). 講師. 訪問看護師指導者育成研修会, 広島県看護協会, 広島市.
【学外からの研究助成】
松原みゆき. 新人訪問看護師の実践能力習得状況からみた訪問利用者と看護ケアの構造化. 日本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究 C (一般), 令和 2 - 5 年度.
眞崎直子, 竹島正, 立森久照, 三徳和子, 田中貴子, 松原みゆき. 都市型準限界集落等地域のソーシャルキャピタル醸成推進プログラム開発と社会実装研究. 日本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究 C (一般), 令和 3 - 5 年度.

丸山 愛子

【社会活動】

丸山愛子 (2023, 4 - 9). 非常勤講師. 幼児理解・教育相談, 広島大学教育学部, 東広島市.
丸山愛子 (2023, 10-12). 非常勤講師. 教育心理学, 広島市立大学, 広島市.
丸山愛子 (2023, 12). 講師. 令和 5 年度日本赤十字広島看護大学臨床指導者研修会 教育心理, 日本赤十字広島看護大学, 廿日市市.
丸山愛子 (2023). 委員. 廿日市市事業評価監視委員会, 廿日市市役所, 廿日市市.
丸山愛子 (2023, 1-3). 運営委員. 日本教師学学会第 24 回大会, 日本赤十字広島看護大学, 廿日市市.

山本 浩子

【著書】

山本浩子, 百田武司 (2023). アルツハイマー型認知症. 百田武司, 森山美知子編, エビデンスに基づく脳神経看護ケア関連図 改訂版. (pp.282-293). 中央法規出版.
百田武司, 山本浩子, 中村もとゑ, 木下真吾 (2023). 認知症. 百田武司, 森山美知子編, エビデンスに基づく脳神経看護ケア関連図 改訂版. (pp.274-281). 中央法規出版.

【社会活動】

山本浩子 (2023). 企画委員. 第 25 回日本赤十字看護学会学術集会, 廿日市市.
【学外からの研究助成】

山本浩子, 百田武司. 焦燥性興奮のある認知症高齢者への入眠前のハンドマッサージの効果の検証と導入. 日本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究C (一般), 令和2-5年度.

木下 真吾

【著書】

百田武司, 木下真吾, 橋千恵 (2023). 脳の機能と構造. 百田武司, 森山美知子編, エビデンスに基づく脳神経看護ケア関連図 改訂版. (pp.9-12). 中央法規出版.

百田武司, 木下真吾, 橋千恵 (2023). 脳の神経支配. 百田武司, 森山美知子編, エビデンスに基づく脳神経看護ケア関連図 改訂版. (pp.13-14). 中央法規出版.

百田武司, 木下真吾, 橋千恵 (2023). 脳の血管. 百田武司, 森山美知子編, エビデンスに基づく脳神経看護ケア関連図 改訂版. (p.15). 中央法規出版.

森山美知子, 百田武司, 木下真吾, 橋千恵 (2023). 脳神経系のアセスメント. 百田武司, 森山美知子編, エビデンスに基づく脳神経看護ケア関連図 改訂版. (pp.16-19). 中央法規出版.

百田武司, 木下真吾, 橋千恵 (2023). 脳卒中. 百田武司, 森山美知子編, エビデンスに基づく脳神経看護ケア関連図 改訂版. (pp.96-112). 中央法規出版.

百田武司, 木下真吾, 橋千恵 (2023). 脳梗塞. 百田武司, 森山美知子編, エビデンスに基づく脳神経看護ケア関連図 改訂版. (pp.114-129). 中央法規出版.

百田武司, 木下真吾, 橋千恵 (2023). 脳出血. 百田武司, 森山美知子編, エビデンスに基づく脳神経看護ケア関連図 改訂版. (pp.132-138). 中央法規出版.

百田武司, 木下真吾, 橋千恵 (2023). くも膜下出血. 百田武司, 森山美知子編, エビデンスに基づく脳神経看護ケア関連図 改訂版. (pp.140-150). 中央法規出版.

百田武司, 山本浩子, 中村もとゑ, 木下真吾 (2023). 認知症. 百田武司, 森山美知子編, エビデンスに基づく脳神経看護ケア関連図 改訂版. (pp.274-281). 中央法規出版.

木下真吾, 百田武司 (2023). 血管性認知症. 百田武司, 森山美知子編, エビデンスに基づく脳神経看護ケア関連図 改訂版. (pp.294-302). 中央法規出版.

木下真吾, 百田武司 (2023). コラム「脳卒中の評価法 (NIHSS)」。百田武司, 森山美知子編, エビデンスに基づく脳神経看護ケア関連図 改訂版. (pp.154-157). 中央法規出版.

木下真吾, 百田武司 (2023). コラム「脳卒中の評価法 (mRS)」。百田武司, 森山美知子編, エビデンスに基づく脳神経看護ケア関連図 改訂版. (pp.158-159). 中央法規出版.

木下真吾, 百田武司 (2023). コラム「ADL の評価法 (BI と FIM)」。百田武司, 森山美知子編, エビデンスに基づく脳神経看護ケア関連図 改訂版. (pp.383-385). 中央法規出版.

木下真吾, 百田武司 (2023). コラム「脳卒中の評価法 (HDS-R と MMSE)」。百田武司, 森山美知子編, エビデンスに基づく脳神経看護ケア関連図 改訂版. (pp.303-305). 中央法規出版.

【学会発表】

百田武司, 木下真吾, 横井靖子, 飯山有紀 (2023). 脳卒中患者への ADL を強化する看護ケアの実態 脳卒中看護認定看護師の重要度の認識と所属部署の実施状況. 第 43 回日本看護科学学会学術集会, 下関市.

木下真吾, 百田武司 (2023). 脳卒中患者の家庭血圧測定行動の獲得を目指したプログラムの効果: 診療ガイドライン遵守に関する評価. 第 49 回日本脳神経看護研究学会, 金沢市.

【社会活動】

木下真吾 (2023). 評議員. 日本脳神経看護研究学会.

木下真吾 (2023). 社会貢献委員. 公益社団法人日本看護科学学会.

木下真吾 (2023). 編集委員. 日本赤十字看護学会.

木下真吾 (2023). 査読委員. 日本脳神経看護研究学会.

木下真吾 (2023). 社会貢献・広報委員. 日本脳神経看護研究学会.

木下真吾 (2023). 庶務担当. 日本脳神経看護研究学会.

木下真吾 (2023). 企画委員. 第 25 回日本赤十字看護学会学術集会.

木下真吾 (2023, 1 - 3). 運営委員. 第 25 回日本教師学学会学術集会.

木下真吾 (2023, 3). シンポジスト. シンポジウム「発症から在宅生活までを支える脳卒中看護の最前線 (脳卒中患者の家庭血圧測定行動の獲得にむけた継続的支援)」, STROKE2023.

木下真吾 (2023, 5 - 9). 講師. 動画コンテンツ「FitNs Q & A 動画 脳神経編」, メディカ出版.

木下真吾 (2023, 8). 講師. 一般社団法人 回復期リハビリテーション病棟協会主催 第 8 回看護リーダー・主任研修会. 「回復期リハビリ病棟における再発予防教育プログラムの効果」, 回復期リハビリテーション病棟協会.

【学外からの研究助成】

木下真吾. VR を活用した脳卒中患者の日常生活動作を強化する看護ケア実践プログラムの開発. 日本学術振興会科学研究費補助金 (若手研究), 令和 4 - 7 年度.

百田武司, 木下真吾. 回復期脳卒中患者の日常生活動作を強化する看護ケアのベストプラクティス開発. 日本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究 C (一般), 平成 31 - 令和 3 年度.

百田武司, 木下真吾. 脳卒中患者の日常生活動作を強化する看護ケアプログラムの有効性検証の多施設共同試験. 日本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究 B (一般), 令

和4－8年度.

木村 幸生

【学術雑誌等掲載論文】

松本陽子, 恵良友彦, 木村幸生 (2023). 精神科看護師の患者に対する陰性感情と職場の働きやすさおよびレジリエンスとの関連. 日本精神保健看護学会誌, 32 (1), 1-9.

【社会活動】

木村幸生 (2023). ボランティア. メンタルヘルス・食品衛生管理, 社会福祉法人交響, 広島市.

木村幸生 (2023). 支部役員幹事 (教育担当). 公益社団法人広島県看護協会廿日市支部.

木村幸生 (2023, 11－12). 「看護の日」広島県大会の催事に係るプロジェクト. 公益社団法人広島県看護協会.

榮田 絹代

【学術雑誌等掲載論文】

榮田絹代, 佐々木直美 (2023). 第一子育児中の母親に対するロールレタリング法の効果. 日本看護福祉学会誌, 28 (2), 75-83.

榮田絹代, 石村美由紀, 柿並洋子, 中藤由佳美, 柳迫三寛, 徳田和央, 中村文哉, 吉村耗一 (2023). 少子化と子育て支援の現状－3人目の壁に着目して－. 山口県立大学学術情報, 16, 103-108.

榮田絹代, 佐々木直美 (2023). 第一子育児中の母親を対象としたロールレタリングの記述内容の変化. 役割交換書簡法・ロールレタリング研究, 6, 41-52.

【学会発表】

榮田絹代 (2023). 第一子育児中の母親に対するロールレタリング法の効果. 第43回日本看護科学学会学術集会, 下関市.

眞崎直子, 田中貴子, 松原みゆき, 水馬朋子, 榮田絹代, 今田菜摘, 古賀聖典 (2023). 交流集会 都市型準限界集落のソーシャルキャピタルコーディネーター育成プログラム開発と評価. 第43回日本看護科学学会学術集会, 下関市.

【社会活動】

榮田絹代 (2023, 11). 委員. 健康ひろしま 21 圏域計画推進ワーキングチーム会議, 広島県西部地域保健対策協議会, 廿日市市.

榮田絹代 (2023, 12). 実行委員. 第43回日本看護科学学会学術集会, 日本看護科学学会, 下関市.

【受賞等】

第 43 回日本看護科学学会学術集会 優秀演題抄録賞

鈴木 香苗

【社会活動】

鈴木香苗 (2023, 6 – 12). 実行委員. 第 25 回日本赤十字看護学会学術集会, 日本赤十字
広島看護大学, 廿日市市.

【学外からの研究助成】

鈴木香苗. 術後補助化学療法を受けるがん患者の倦怠感軽減に向けた身体活動向上プログラムの検討. 公益財団法人安田記念医学財団 令和 2 年度癌看護研究助成, 令和 2 年度
(延長中).

宗内 桂

【学術雑誌等掲載論文】

宗内桂, 村田由香, 篠原謙太 (2023). 総合看護実習 (学内実習) の学生による評価と今後の課題. 日本赤十字広島看護大学紀要, 23, 11-21.

【学会発表】

村田由香, 宗内桂, 大林由美子, 谷口理恵 (2023). Appreciative Inquiry を活用した組織内プロジェクト活動の有効性の検討. 第 24 回日本赤十字看護学会学術集会, 仙台市.
田村由美, 吉田みつ子, 中川典子, 濱田真由美, 谷口千絵, 木村勇喜, 吉田和美, 小野芳子, 近末清美, 宗内桂, 木下真吾 (2023). 論文投稿から採択までの A to Z 学会発表の次にすることをお伝えします. チャレンジ論文投稿!. 第 24 回日本赤十字看護学会学術集会, 仙台市.

今井多樹子, 村田由香, 水馬朋子, 三輪晃子, 宗内桂, 高田洋介, 篠原謙太, 門田清孝 (2023). 地域の視点で幅広い看護の対象理解を育む 新たな基礎看護学実習「看護の基盤実習 I」の取り組み. 第 33 回日本看護教育学会学術集会, 福岡市.

【社会活動】

宗内桂 (2023, 1 – 6). 支部役員幹事 (教育担当). 公益社団法人広島県看護協会廿日市支部.

宗内桂 (2023). 編集委員. 日本赤十字看護学会編集委員会.

【学外からの研究助成】

村田由香, 宗内桂. 中小規模病院のジェネラリスト看護職のリーダーシップ育成プログラムの作成. 日本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究 C (一般), 平成 30 – 33 年度.

宗内桂, 川崎裕美. 子どもの学習環境を維持するための学校避難所運営と地域連携のあり方

に関する研究. 日本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究C (一般), 令和1 – 5年度.

村田由香, 宗内桂, 篠原謙太. 中堅看護師のオーセンティックリーダーシップ開発プログラムの検討. 基盤研究C (一般), 令和5年度 – 令和7年度.

高田 洋介

【著書】

日本自然災害学会 (編集), 高田洋介ほか (2022). 自然災害科学・防災の百科事典. 丸善出版.

【学術雑誌等掲載論文】

高田洋介, 池田修一, 喜田たろう, 勝部司, 夏川知輝, 甲斐聡一郎, 久保達彦 (2023). ASEAN 災害医療連携強化プロジェクトの活動報告 (続報). 日本災害医学会雑誌, 28 (3), 115-123.

【学会発表】

高田洋介 (2023). COVID-19 流行下でのA市における外国籍住民の保健医療サービスアクセスに関する実態調査. 日本災害医学会第28回学術集会, 盛岡市.

Abel, Táiti., Konno, Pinheiro., Akihiko, Hokugo., Osamu, Tsukihashi., Yosuke, Takada., Claus, Aranha. (2023). Evacuation Capability of Nursery Workers Carrying Infants In Steep Routes During TSUNAMI Drills. VI International Congress on Risks. VI International Congress on Risks, Coimbra, Portuguese.

Yosuke, Takada., Hiroshi, Nakamura., Mayumi, Kako. (2023). Utilization of regular ships as hospital ships in a disaster situation: a trial report from Japan. WADEM Congress on Disaster and Emergency Medicine 2023. Killarney, Ireland.

【社会活動】

高田洋介 (2023, 4). 非常勤講師. 国際看護学, JCHO 神戸中央病院附属看護専門学校, 神戸市.

高田洋介 (2023, 7). 講師. ARCH Project Health Needs Assessment, Online Pre-Learning Lectures for C-Course For the Preparation of the Fifth Regional Collaboration Drill (RCD) in Malaysia. オンライン.

高田洋介 (2023, 7 – 3). 講師. 看護研究指導, 広島県看護協会, 広島市.

高田洋介 (2023, 9). 講師. 廿日市市介護支援専門員連絡協議会研修会, 総合健康福祉センター, 廿日市市.

高田洋介 (2023, 9). アドバイザー. ARCH Project the 5th Regional Collaboration Drill, クアラルンプール.

高田洋介 (2023, 10). 非常勤講師. 災害看護学, 聖隷クリストファー大学, 浜松市.

高田洋介 (2023, 11). 講師. ARCH Project Knowledge Co-creation Program Disaster Health Management in ASEAN countries, 神戸.

高田洋介 (2023). 日本赤十字国際人道研究センター研究員.

高田洋介 (2023). 一般社団法人日本看護系大学協議会災害連携教員.

高田洋介 (2023). 長野県高森町防災アドバイザー.

高田洋介 (2023). 国連人道問題調整事務所 UNDAC (国連災害評価調整) メンバー.

高田洋介 (2023). 独立行政法人国際協力機構 ASEAN 災害保健医療管理に係る地域能力強化プロジェクト国内支援委員.

高田洋介 (2023). 独立行政法人国際協力機構国際緊急援助隊医療チーム登録メンバー.

【学外からの研究助成】

加古まゆみ, Rahaman, MD, Moshiur., 寺本千恵, 高田洋介, 久保達彦, Ismail, Tayfur, Perihan, Şimşek., Abdulkadir Gunduz., Burcu Bayramoglu. 「よりよい復興」に向けた公衆衛生保健システムのレジリエンス: スコアカードを用いた評価分析. 科学技術振興機構 カフラマンマラシュ (トルコ南東部) 地震関連 国際緊急共同研究・調査支援プログラム (J-RAPID), 令和5年度.

竹倉 晶子

【社会活動】

竹倉晶子 (2023). 委員. 廿日市市学校給食センター運営会議, 廿日市市教育委員会, 廿日市市.

竹倉晶子 (2023). 査読委員. 日本赤十字看護学会.

服部 智子

【学会発表】

川東明美, 大脇浩香, 高杉奈穂子, 大長美智子, 高橋美希, 原田有利子, 服部智子 (2023).

看護師が行う腎不全患者への治療選択支援に関する文献レビュー. 第26回日本腎不全看護学会学術集会・総会, 仙台市.

【社会活動】

服部智子 (2023). 編集委員. 日本腎不全看護学会.

松本 由恵

【学術雑誌等掲載論文】

植田喜久子, 山村美枝, 若林彰子, 鈴木香苗, 松本由恵, 横山奈未, (2023). 専門看護師が経験した複雑で対応困難な問題に対するコンサルテーションにおける判断と行動. 高

知女子大学看護学会誌, 49 (1), 92-99.

【学会発表】

松本由恵, 岡田淳子, 越道香織 (2023). 在宅療養者の手指衛生強化が手指の微生物除去に及ぼす影響. 日本看護技術学会第 21 回学術集会, 熊本市.

松本由恵, 岡田淳子 (2023). 在宅で実施可能な患者の手指衛生の方法の確立. 日本看護科学学会第 43 回学術集会, 下関市.

越道香織, 松本由恵, 岡田淳子 (2023). 医療依存度の高い在宅療養者の手指汚染と環境汚染の実態. 日本看護技術学会第 21 回学術集会, 熊本市.

【社会活動】

松本由恵 (2023, 6 – 12). 実行委員. 日本赤十字看護学会第 25 回学術集会, 第 25 回日本赤十字看護学会学術集会事務局, 廿日市市.

【受賞等】

日本看護技術学会第 21 回学術集会 優秀演題

【学外からの研究助成】

松本由恵, 岡田淳子. 医療依存度の高い在宅療養者の手指衛生推進のための基礎的研究. 日本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究 C (一般), 平成 30 – 32 年度 (期間延長).

三輪 晃子

【学会発表】

三輪晃子, 川西美佐 (2023). 初学者への P-mSHELL モデルを用いた医療事故事例の分析演習. 日本赤十字看護学会第 24 回学術集会, 仙台市.

川畑貴寛, 三輪晃子 (2023). 臨床推論の育成を図るための 2 年次基礎看護学実習前 OSCE. 日本赤十字看護学会第 24 回学術集会, 仙台市.

今井多樹子, 村田由香, 水馬朋子, 三輪晃子, 宗内桂, 高田洋介, 篠原謙太, 門田清孝 (2023). 地域の視点で幅広い看護の対象理解を育む新たな基礎看護学実習「看護の基盤実習 I」の取り組み. 日本看護学教育学会第 33 回学術集会, 福岡市.

【社会活動】

三輪晃子 (2023, 2). 講師. 看護研究発表会, 広島県看護協会廿日市支部, Web 開催.

三輪晃子 (2023, 10 – 11). 助言者. 令和 5 年度広島県保健師助産師看護師実習指導者講習会, 広島県看護協会, 広島市.

【学外からの研究助成】

三輪晃子. 看護基礎教育における医療事故の未然防止シミュレーショントレーニングの構築. 日本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究 C (一般), 令和 1 – 5 年度.

横山 奈未

【学会発表】

横山奈未, 岡田淳子 (2023). 内視鏡外科手術における手術看護師による神経損傷予防のためのポジショニング. 日本看護研究学会第 49 回学術集会, Web 開催.

渡邊 聡美

【社会活動】

渡邊聡美 (2023, 6 – 12). 助産師国家試験プール問題作成・登録協力員. 全国助産師教育協議会, 東京都.

渡邊聡美 (2023, 7). 講師. 中学生に対する性教育, 岩国市立灘中学校, 岩国市.

渡邊聡美 (2023, 9). 講師. 小学生に対する性教育, 府中町立府中南小学校, 安芸郡府中町.

渡邊聡美 (2023, 10). 講師. 中学生に対する性教育, 岩国市立玖珂中学校, 岩国市.

渡邊聡美 (2023, 12). 講師. 中学生に対する性教育, 岩国市立平田中学校, 岩国市.

【学外からの研究助成】

奥村ゆかり, 勝田真由美, 中村敦子, 渡邊聡美. 学童期から大学生男女へのプレコンセプションケアを目指した教育プログラムの開発. 日本学術振興会学術研究助成基金助成金基盤研究C (一般), 令和 2 – 5 年度.

今田 菜摘

【学会発表】

今田菜摘, 水馬朋子, 松原みゆき (2023). 1 歳 6 か月児をもつ母親のヘルスリテラシーに関連する要因. 日本地域看護学会第 26 回学術集会, 川崎市ハイブリッド開催.

眞崎直子, 田中貴子, 松原みゆき, 水馬朋子, 榮田絹代, 今田菜摘, 古賀聖典 (2023). 交流集会 都市型準限界集落のソーシャルキャピタルコーディネーター育成プログラム開発と評価. 第 43 回日本看護科学学会学術集会, 下関市.

【社会活動】

今田菜摘 (2023, 6 – 12). 実行委員, 第 25 回日本赤十字看護学会学術集会, 廿日市市.

上園 愛

【社会活動】

上園愛 (2023, 6 – 12). 実行委員, 第 25 回日本赤十字看護学会学術集会, 廿日市市.

亀石 知美

【社会活動】

亀石知美 (2023, 4). 講師. 健やかな大学生を送るために, 日本赤十字広島看護大学, 廿日市市.

亀石知美 (2023, 6). 講師. 思春期の生と性, 柳井市立柳井西中学校, 柳井市.

亀石知美 (2023, 7). 講師. 健やかな学校生活を送るために, 岩国市立川下中学校, 岩国市.

亀石知美 (2023, 7). 講師. 健やかな学校生活を送るために, 岩国市立灘中学校, 岩国市.

亀石知美 (2023, 7). 講師. 性教育, 思春期の生と性, 山口県立岩国高等学校 坂上分校, 岩国市.

亀石知美 (2023, 9). 講師. いのちのたんじょう, 府中町立府中南小学校, 安芸郡府中町.

亀石知美 (2023, 9). 講師. 性教育 知っておきたい性の話, 広島修道大学, 広島市.

亀石知美 (2023, 10). 講師. 健やかな学校生活を送るために, 岩国市立玖珂中学校, 岩国市.

亀石知美 (2023, 11). 相談者. 産後ケア事業, あさひ保育園子育てステーション, 岩国市.

亀石知美 (2023, 12). 講師. 健やかな学校生活を送るために, 岩国市立平田中学校, 岩国市.

亀石知美 (2023, 12). 講師. 女子受刑者への性教育, 岩国刑務所, 岩国市.

川畑 貴寛

【学術雑誌等掲載論文】

Kawabata Takahiro, Moriyama Michiko, Niitani Mayumi, Muzembo Basilua Andre (2023). Factors interfering with behavioral change in patients with non-alcoholic fatty liver disease: An ethnographic study. Journal of International Nursing Research, [advpubdoi:10.53044/jinr.2021-0032](https://doi.org/10.53044/jinr.2021-0032).

【学会発表】

川畑貴寛, 三輪晃子 (2023). 臨床推論の育成を図るための2年次基礎看護学実習前 OSCE. 日本赤十字看護学会第24回学術集会, 仙台市.

川畑貴寛 (2023). 救急看護・集中ケア認定看護師が認識する急変対応における新人看護師の課題. 日本看護科学学会第43回学術集会, 下関市.

【社会活動】

川畑貴寛 (2023). 実行委員. 第25回日本赤十字看護学学会学術集会.

【学外からの研究助成】

川畑貴寛. VR 技術を活用した看護基礎教育における急変対応プログラムの開発. 日本学術

振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究C（一般），令和3－6年度。

是澤 あずさ

【社会活動】

是澤あずさ（2023，4）. 講師. 大学生に対する性教育, 日本赤十字広島看護大学, 廿日市市.

是澤あずさ（2023，9）. 講師. 小学生に対する性教育, 府中町立府中南小学校, 広島県安芸郡府中町.

是澤あずさ（2023，12）. 講師. 中学生に対する性教育, 岩国市立平田中学校, 岩国市.

篠原 謙太

【学術雑誌等掲載論文】

篠原謙太（2023）. Q8 透析時間や除水量はどうやって決めているの？体重が違って同じ透析時間なの？. 透析ケア, 29（1）, 36-38.

篠原謙太（2023）. Q9 除水設定を間違えたらどうするの？途中で設定を変更できるの？. 透析ケア, 29（1）, 40-42.

宗内桂, 村田由香, 篠原謙太（2023）. 総合看護実習（学内実習）の学生による評価と今後の課題. 日本赤十字広島看護大学紀要, 23, 11-21.

立川洋平, 篠原謙太, 前田直樹, 木村淳（2023）. シェントトラブルスコアリングシートとエコーを用いたバスキュラーアクセス管理の有用性の検討. 日本血液浄化技術学会誌, 31（1）, 115-117.

江上豊, 木村剛, 篠原謙太（2023）. A病院の血液透析患者がV A穿刺時に感じる痛みに関する質的研究. 腎と透析, 95（別冊）アクセス2023, 221-223.

【学会発表】

大脇浩香, 木村奈穂子, 井上智子, 和田薫, 篠原謙太, 服部智子, 川東明美, 坊坂佳子, 朝枝正江, 谷口裕子, 福原真理（2023）. JANN 交流集会「みんなで考えよう！治療選択支援」の実践報告～中国地区からの発信～. 第2回日本臨床腎臓病看護研究会学術集会・総会, 三鷹市, ハイブリット開催.

江上豊, 篠原謙太, 木村剛（2023）. 透析患者の穿刺時の思いから外用局所麻酔剤の選定に関わる一考察. 第18回日本インターベンショナルネフロロジー学会学術集会, 北九州市.

立川洋平, 篠原謙太, 前田直樹, 木村淳（2023）. シェントトラブルスコアリングシートとエコーを用いたバスキュラーアクセス管理の有用性の検討. 第49回日本血液浄化技術学会学術大会・総会, 名護市.

篠原謙太（2023）. 透析医療従事者によるバスキュラーアクセスの観察に関する文献レビュー

一. 第 68 回日本透析医学会学術集会, 神戸市.

今井多樹子, 村田由香, 水馬朋子, 三輪晃子, 宗内桂, 高田洋介, 篠原謙太, 門田清孝(2023).

地域の視点で幅広い看護の対象理解を育む新たな基礎看護学実習「看護の基盤実習 I」の
取り組み. 日本看護学教育学会第 33 回学術集会, 福岡市.

篠原謙太 (2023). 透析医療における多職種連携・協働に関する文献レビュー. 第 26 回日
本腎不全看護学会学術集会, 仙台市.

【社会活動】

篠原謙太 (2023). 代議員. 日本腎不全看護学会.

篠原謙太 (2023). 理事. 日本臨床腎臓病看護研究会.

篠原謙太 (2023). 幹事. 日本教師学学会企画委員会.

篠原謙太 (2023). 委員. 日本腎不全看護学会 医療安全・感染対策委員会.

篠原謙太 (2023, 2). 一般演題査読委員. 第 68 回日本透析医学会学術集会・総会.

篠原謙太 (2023, 3). 座長. 第 2 回日本臨床腎臓病看護研究会学術集会 トピックスセミ
ナー, 杏林大学 井の頭キャンパス, 三鷹市, ハイブリット開催.

篠原謙太 (2023, 4). 講師. Q & A 講義動画, 透析患者の採血時の対応, 治療食による制
限のある患者の対応. FitNs. 株式会社メディカ出版.

篠原謙太 (2023, 4 - 8). 抄録選考委員. 第 53 回日本看護学会学術集会.

篠原謙太 (2023, 4 - 12). センター調査 個別調査部会 部会員. 日本医療安全調査機構
医療事故調査・支援センター.

篠原謙太 (2023, 6 - 12). 実行委員. 第 25 回日本赤十字看護学会学術集会.

篠原謙太 (2023, 7 - 8). 査読委員. 第 26 回日本腎不全看護学会学術集会・総会.

篠原謙太 (2023, 10). 講師. セルフケア支援に活かす慢性腎臓病の理解と看護, 広島県看
護協会, Web 開催.

篠原謙太 (2023, 11). 座長. 第 26 回日本腎不全看護学会学術集会・総会, 一般演題 (ポ
スター) 9 「看護システム・管理」, TKP ガーデンシティ仙台, 仙台市.

篠原謙太 (2023, 11 - 12). 理事. 日本腎不全看護学会.

篠原謙太 (2023, 11 - 12). 委員長. 日本腎不全看護学会 統計調査委員会.

【学外からの研究助成】

篠原謙太, 村田由香. 多職種で活用するシャント閉塞予防に向けたシャントモニタリングプ
ログラムの開発. 日本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究 C (一般), 令和 4
- 7 年度.

村田由香, 宗内桂, 篠原謙太. 中堅看護師のオーセンティックリーダーシップ開発プログラ
ムの検討. 日本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究 C (一般), 令和 5 - 7 年
度.

野村 悠美子

【学会発表】

野村悠美子, 村田由香 (2023). 新人看護師に関わる先輩看護師の教育的な役割遂行状況と学習する組織との関連. 第 27 回日本看護管理学会学術集会, 千代田区.

水兼 香与

【社会活動】

水兼香与 (2023). 運営委員. 日本 ALS 協会広島県支部, 広島県.

安田 千香

【学術雑誌等掲載論文】

安田千香, 深井喜代子 (2023). 化学療法を受ける大腸がん患者の手指に生じる末梢神経障害の特徴－横断的観察研究－. 日本看護技術学会誌, 22 (1), 38-50.

【学外からの研究助成】

安田千香. 抗癌剤による末梢神経障害患者のためのセルフケア方法の開発. 日本学術振興会学術研究助成基金助成金 (若手研究), 平成 30 – 令和 5 年度.

黒田寿美恵, 山内栄子, 松井美由紀, 安田千香, 中垣和子, 菊内由貴, 澤岡美咲, 滝口里美. 地域で暮らすがん患者のエンドオブライフ充実に向けた外来－地域看護連携モデルの構築. 日本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究C (一般), 令和 2 – 6 年度.

山本 知世

【著書】

山本知世, 百田武司 (2023). 経口抗凝固薬服用中の注意点. 百田武司, 森山美知子編, エビデンスに基づく脳神経看護ケア関連図 改訂版. (pp.130-131), 中央法規出版.

【学外からの研究助成】

山本知世. 独居高齢者の服薬アドヒアランス向上を目指した看護介入プログラムの構築と効果の検証. 日本学術振興会学術研究助成基金助成金 若手研究, 平成 31 – 令和 5 年度.

若林 彰子

【学外からの研究助成】

若林彰子. 強度変調放射線治療を受ける前立腺がん患者の看護支援モデルの開発. 日本学術振興会学術研究助成基金助成金 若手研究, 平成 31 – 令和 5 年度.

伊藤 渚未

【社会活動】

伊藤渚未 (2023, 4). 講師. 大学生に対する性教育, 日本赤十字広島看護大学, 廿日市市.

伊藤渚未 (2023, 10). 講師. 中学生に対する性教育, 岩国市立玖珂中学校, 岩国市.

伊藤渚未 (2023, 12). 講師. 中学生に対する性教育, 岩国市立平田中学校, 岩国市.

門田 清孝

【学会発表】

今井多樹子, 村田由香, 水馬朋子, 三輪晃子, 宗内桂, 高田洋介, 篠原謙太, 門田清孝 (2023).

地域の視点で幅広い看護の対象理解を育む新たな基礎看護学実習「看護の基盤実習 I」の
取り組み. 日本看護教育学会第 33 回学術集会, 福岡市.

編集：令和 5 年度ヒューマンケアリングセンター運営委員会

委員長：村田由香、副委員長：松原みゆき 委員：山村美枝、水馬朋子、中村もとゑ、
鈴木香苗、三輪晃子、亀石知美、泉晴子、松本佳子、山本恵美子

発行：令和 6 年 3 月

日本赤十字広島看護大学ヒューマンケアリングセンター 広島県廿日市市阿品台東 1 番 2 号

TEL 0829-20-2806 Email human@jrchn.ac.jp